

2001年度

# 講義計画

桃山学院大学

1. 講義の目的

2. 講義の概要

3. 講義の進め方

4. 講義の時間割

| 科 目 名  | クラス           | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|--|---------------|------|------|---------|
| 日本語Ⅱ a   |               | 通 期  | 2 単位 | 三 宅 ひとみ |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>大学生活で必要な日本語の向上。<br>社会問題や、専門分野についての会話、討論を円滑にかつ効果的に行うための日本語を学ぶ。<br>あらゆる日本語の情報媒体を通して、読む、書く、聞く、話すの4技能の総合的向上を目指す。 | <b>【講義計画】</b> |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>出席、テスト、提出物、授業への参加度・態度  | <b>【参考文献】</b> |      |      |         |
| <b>【教科書】</b>   |               |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|---|--|------|------|---------|
| 日本語Ⅱ b  |  | 通 期  | 2 単位 | 友 沢 昭 江 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>大学に入学して一年が過ぎて、日本語ですべてのコミュニケーションを行うことのむずかしさを十分自覚したと思います。日本語能力を高めるだけでは解決できない問題もありますが、やはり実践的な言語能力を養う努力は続けていかなければなりません。<br>この授業では、大学生に求められる日本語能力をさらに強化するためのさまざまな活動を行います。新聞の論説記事や、専門的な論文等を、批判的に読み、意見を文章にまとめ、発表するという活動を中心に行います。 | <b>【講義計画】</b><br>授業は年間を通して、新聞記事や論文を読み、理解し、議論し、自分の意見を文章にすることを中心に行います。 |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>授業で学んだ内容に関連した課題を提出すること、随時行う小テスト（一学期に数回）、各学期末の試験の結果を総合的に判断して成績を出します。もちろん出席は重要な要素です。  | <b>【参考文献】</b><br>特になし。辞書を必ず持参すること。                                   |      |      |         |
| <b>【教科書】</b><br>教員が毎回準備するので、特に指定はしません。ただし、じぶんが一番使いやすい辞書は必ず持参すること。   |  |      |      |         |



| 科 目 名  | クラス   | 講義区分                          | 単位数        | 担 当 者   |
|--|---|-------------------------------|------------|---------|
| 教育学概論 (旧教育原理Ⅰ)   | 01<br>02  | 前 期<br>前 期                    | 2単位<br>2単位 | 竹 中 暉 雄 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を内容とする。<br/>これまで学校教育だけで12年間以上も教育を受けてきながら、いざ「教育とは何か」と改めて問われると極めて答えにくいものである。教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。<br/>その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。<br/>教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。講義内容および各自が独自に仕入れた知識を比較検討して、自分自身の教育論を持つようにしてほしい。質問・意見は質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) で受けつけます。</p> | <p><b>[講義計画]</b><br/>教育の本質<br/>1 教育の定義<br/>2 人間の教育必要性和教育可能性<br/>3 我・汝関係と教育関係<br/>4 教師と教育的タクト<br/>人間の脳と教育<br/>5 人間の脳の特異性<br/>6 遺伝と環境の問題<br/>7 生涯学習の必要性和可能性<br/>教育理念の思想史<br/>8 近代教育論の始まり<br/>9 「合自然」の教育論<br/>10 「反合自然」の教育論<br/>11 児童中心主義の意義</p> | 12 実存主義からの問題提起                |            |         |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>論述試験による。コメントカードは参考として使用。</p>   |   | <b>[参考文献]</b><br>配布プリントに掲載する。 |            |         |
| <p><b>[教科書]</b><br/>使用しない。随時、プリントを容易する。</p>  |   |                               |            |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分                          | 単位数        | 担 当 者 |
|---|--|-------------------------------|------------|-------|
| 教職概論 (旧教育原理Ⅱ)   | 01<br>02   | 前 期<br>後 期                    | 2単位<br>2単位 | 林 陸 雄 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>1997年の教育職員養成審議会答申を受けて教育職員免許法が改訂された。その改訂ポイントは、教科に関する科目を半減させ、それに替えて教職に関する科目の重視、とくに生徒指導力の向上と教職の使命感の高揚に力点が置かれたことだ。<br/>それを受けて、この科目も必修科目として新設されたのである。求められていることは、教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化である。昨今の青少年が示す様々な教育問題の背景に、教員の在り方が種々取りざたされている。さらにこの困難な状況を克服するためにも、教員の在り方に対する厳しい目が注がれている。<br/>子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事が教職である。そのための基本的な思想・感性・知識・技能を修得していくためのガイドラインとして、この科目が位置づけられている。<br/>可能な限り、視聴覚教材を使用し、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。主体的な受講を期待している。各種の学校を訪問し、参観、補助活動も課外に課す予定である。</p> | <p><b>[講義計画]</b><br/>1. 授業びらき<br/>2. 教職の意義<br/>3. 今日の教育問題<br/>4. 教員の種類と職階<br/>5. 教科指導<br/>6. 教科外指導<br/>7. 進路指導<br/>8. 教育相談<br/>9. 学級経営と校務分掌<br/>10. 研修<br/>11. 服務規程<br/>12. 学習指導要領<br/>13. 学校種と教員の在り方<br/>14. 教職課程</p> |                               |            |       |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。<br/>ただし、2/3以上の出席のないものは、評価の対象としない。</p>  |  | <b>[参考文献]</b><br>授業中に、適宜紹介する。 |            |       |
| <p><b>[教科書]</b><br/>宮崎 和夫 編著<br/>『教職論』 ミネルヴァ書房</p>  |  |                               |            |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分       | 単位数        | 担 当 者   |
|---|--|------------|------------|---------|
| 教育心理学   | 01<br>02   | 前 期<br>前 期 | 2単位<br>2単位 | 冷 水 啓 子 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、学校では、不登校やいじめに加え、授業中私語に興じて教師の話を聞かない、無断で立ち歩いたり、ふざけ合ったりして授業に集中できない、我慢ができず、些細なことですぐに切れる、といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では、このように日常的に起こりうる困難な事態に対し、教師はどのように対処すればよいであろうか。適切に対応するためには、子どもの心理発達の様相や一般的な教授・学習方法を熟知しているうえに、さまざまな発達障害や問題行動への臨床援助に関する基礎的知識やセンスをも併せ持つ必要がある。すなわち、平常の授業を円滑に運営するだけでなく、問題の発生を未然に防いだり、起こった問題の原因を究明して解決へ導くための基礎的知識や技能、柔軟な判断能力や態度が必要とされるのである。</p> <p>そこで、この「教育心理学」では、「幼児、児童・生徒の心身の発達および学習の過程」に関する基礎的理論と教育実践について検討し、実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。講義に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。</p> <p>受講生の講義への主体的・積極的な参加を期待している。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育心理学からみた人間 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発達をめぐる問題：発達の原理</li> <li>2) 家族のなかでの発達から人間関係の拡大へ</li> <li>3) 学校社会での経験と人間学習の特殊性</li> </ol> </li> <li>2 発達の過程 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳幼児期から児童期の発達</li> <li>2) 青年期以降の生涯発達</li> <li>3) 認知の発達</li> </ol> </li> <li>3 個人差の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 個性の把握：個人差の測定と活用</li> <li>2) 知性や人格の理解</li> <li>3) 社会的能力の理解</li> </ol> </li> <li>4 子どもへの理解と支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 適応と不適応</li> <li>2) 発達障害と臨床援助</li> <li>3) 児童期・思春期の心理障害と臨床援助</li> </ol> </li> <li>5 全体のまとめ</li> </ol> <p>[但し、講義の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]</p> |            |            |         |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。学期末に試験を実施する。必要に応じてレポート提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>   | <p>[参考文献]</p> <p>藤永保(著)『幼児教育を考える』(岩波新書)<br/>井上健治(著)『子どもの発達と環境』(東京大学出版会)<br/>大村彰道(編)『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』(東京大学出版会)<br/>下山春彦(編)『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』(東京大学出版会)<br/>高橋恵子・波多野誼余夫(共著)『生涯発達の心理学』(岩波新書)</p>  |            |            |         |
| <p>[教科書]</p> <p>三浦香苗 他(編)『教員養成のためのテキストシリーズ 2 発達と学習の支援』(新曜社)</p>   | 他  |            |            |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分       | 単位数        | 担 当 者   |
|--|---|------------|------------|---------|
| 教育方法学  | 01<br>02  | 後 期<br>後 期 | 2単位<br>2単位 | 冷 水 啓 子 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ある新しい概念や問題の解き方を覚える場合、なぜそうなのか、なぜそうするのかという意味を納得したうえで覚えるときと、ただその内容や手順だけを強制されるまま機械的に覚えるときとは、その問題そのものに対する理解や関心の程度が異なってくる。子どもにとって、楽しくてわかりやすく、有意義な学習とは、前者の場合であろう。</p> <p>そこで、この「教育方法学」では、子どもが知的好奇心や探求心をかき立てられながら学ぶ楽しさ(つらさのときもあるが)や充足感を味わうことのできる学習とは何かを考える。そして、そのような学習を実現する「教育の方法および技術」に関する基礎的理論と教育への応用について検討し、実践的指導力を身につけるための基盤作りを目指す。具体的には、はじめに、子どもの理解を促進する効果的な教授・学習方法や教育メディアにどのようなものがあるか、それらの特徴や利用の仕方を考察する。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習過程を支援するためのコンピュータの実践的利用について、コンピュータ実習を通じて体験的に習得する。最後に、実習で利用したさまざまな電子メディアを駆使して印刷教材を作成する。</p> <p>なお、講義や実習に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。</p> <p>受講生の講義や実習への主体的・積極的な参加を期待している。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 何のために、何を、どう学ぶのか</li> <li>2) 学習の原理</li> </ol> </li> <li>2 教授活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習指導観と学習指導法</li> <li>2) 教師の役割</li> <li>3) 学級経営と学級集団の組織化</li> </ol> </li> <li>3 学習指導と学習評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教授技術と学習指導過程</li> <li>2) 学習への動機づけと学習意欲</li> <li>3) 教育測定と学習評価</li> </ol> </li> <li>4 教育と環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報化時代と教育</li> <li>2) 異文化とふれあう</li> </ol> </li> <li>5 教育へのコンピュータ利用(コンピュータ実習を含む) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 電子メールやインターネットの利用</li> <li>2) 文章作成ソフトや表計算ソフトの利用</li> <li>3) 印刷教材の作成</li> </ol> </li> </ol> <p>[但し、講義や実習の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]</p> |            |            |         |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席および講義や実習への参加を重視する。学期末に、作成した印刷教材およびレポート提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>  | <p>[参考文献]</p> <p>赤堀侃司(著)『学校教育とコンピュータ』(NHKブックス)<br/>波多野誼余夫・稲垣佳世子(共著)<br/>『人はいかに学ぶか——日常的認知の世界——』(中公新書)<br/>情報教育学研究会 他(編)『インターネットの光と影』(北大路書房)<br/>水越敏行・佐伯胖(編)『変わるメディアと教育のありかた』(ミネルヴァ書房)<br/>高島秀之(編)『マルチメディア教育』(有斐閣選書)<br/>大村彰道(編)『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』(東京大学出版会)</p>  |            |            |         |
| <p>[教科書]</p> <p>三浦香苗 他(編)『教員養成のためのテキストシリーズ 2 発達と学習の支援』(新曜社)<br/>桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』</p>   | 他   |            |            |         |



| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| 社会科・地歴科教育法 (旧社会科教育法)<br>(旧地理歴史科教育法)   | 01  | 通期   | 4単位 | 野尻 亘  |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>           学校教育現場では、いじめ・不登校・校内暴力・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況の中で、「地理歴史科」の教育は、どのようにあるべきか。<br/>           単に知識の伝達に留まらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、地理歴史教育の再構築を目指すこととする。</p> <p>この授業は中学校社会科・高校地理歴史科教員免許取得の必修科目です。そのため模擬授業や討論など演習形式を採用して行います。教員免許取得の希望のない学生が履修しても苦痛となります。そのため、よく注意して履修手続きをしてください。</p> | <p><b>[講義計画]</b><br/>           (前期) 1. 学校における教科教育 陶冶と訓育<br/>           2. 地理歴史科の目標<br/>           3. 地理歴史科のカリキュラム構成<br/>           4. 教育実習と授業実践<br/>           5. 授業指導案の作成<br/>           6. 地理歴史教育と人権学習・同和教育の実践<br/>           7. 学校地理教育・歴史教育の目標と課題<br/>           8. 生涯学習社会と地理歴史教育</p> |      |     |       |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>           指定した書式にもとづく「授業指導案」をレポートとして作成し提出する。このことを単位認定の基礎条件とする。演習形式。</p>  | <p><b>[参考文献]</b><br/>           文部省『高等学校学習指導要領』大蔵省印刷局<br/>           井原政純『社会・地理・公民科基礎論』多賀出版<br/>           永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書</p>   |      |     |       |
| <p><b>[教科書]</b><br/>           文部省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版</p>  |   |      |     |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|---|--|------|------|---------|
| 社会科・地歴科教育法 (旧社会科教育法)<br>(旧地理歴史科教育法)   | 02   | 通 期  | 4 単位 | 山 崎 充 彦 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>           地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。<br/>           知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、授業運営を行う。<br/>           もっぱら教員免許取得希望者を対象にした講義なので、教職希望しない者にとっては、あるいは苦痛を感じるかもしれない。その点、留意の上、登録履修されたい。<br/>           なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいと思うが、地理分野に主たる関心を持つ者の登録履修も歓迎する。</p> | <p><b>[講義計画]</b><br/>           開講当初は、担当者が、指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、参加者は以下のような形の授業へ積極的参加が要求される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各自がそれぞれ学習指導案を作成する。</li> <li>その指導案に基づき、模擬授業を行ってもらう。</li> <li>その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案を配布する。</li> <li>模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。<br/>             =指導案そのもの問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。</li> <li>当日の出席者は、その模擬授業についてまとめ、翌週にレポートを提出する。</li> </ol> <p>模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。<br/>           受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点、留意されたい。</p> |      |      |         |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>           何よりも、授業への積極的な取り組みが必要である。<br/>           学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、これらにより、総合的に評価する。</p>   |  |      |      |         |
| <p><b>[教科書]</b><br/>           文部省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版</p>   |  |      |      |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 社会科・公民科教育法 (旧社会科教育法)<br>(旧公民科教育法)  | 01  | 通 期  | 4 単位 | 飯島敏文  |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br>社会科は第2次大戦後にはじめて登場した教科です。この半世紀、社会科のあり方については、さまざまな議論が戦わされてきました。このことは、社会科という教科が、それだけ多くの関心を集めている証でもあります。<br>本授業の前期においては主に社会科を取り上げ、社会科の成立、成立期社会科の意義、さらにはその後の議論を考えることを通して、現代社会科の可能性と限界を探ることとします。また後期においては主に公民科を取り上げ、公民科の成立、公民科の特徴、公民科の意義などを明らかにした上で、終戦直後の公民教育構想を振り返ります。前期及び後期においては、それぞれ、社会科の学習指導案及び公民科の学習指導案の作成に取り組みます。<br>とくに「社会科嫌い」の子どもが多く生まれている現実には、社会科授業・公民科授業が魅力あるものになっていないことを証明しています。事実を覚えるのが社会科授業・公民科授業の目的ではありません。社会生活を理解すること、そして、その理解の上に立って建設的に行動できる人間を育てることが社会科授業・公民科授業には求められます。すべての教科にとって普遍的な事柄についても多く触れていく予定ですので、単なる社会科・公民科免許のための講義と思わずに、自らの授業観・教育観の転換をめざしていただきたいと思えます。既成観念にとらわれない学習指導案を考案してください。 | <b>[講義計画]</b><br>前1 社会科成立前史<br>前2 社会科の成立<br>前3 成立期社会科の特徴<br>前4 成立期社会科の意義<br>前5 成立期社会科の実践<br>前6 成立期社会科の課題<br>前7 社会科学学習指導要領の変遷と現代社会科<br>前8 社会科学学習指導案の作成<br>後1 公民科成立までの経緯<br>後2 公民科の成立<br>後3 公民科の特徴<br>後4 公民科の意義<br>後5 公民科の実践<br>後6 公民科の課題<br>後7 終戦直後の公民教育構想と現代公民科<br>後8 公民科学習指導案の作成 |      |      |       |
| <b>[成績評価の方法]</b><br>出席回数、授業内レポートの内容、期末試験の成績を総合的に評価する。  | <b>[参考文献]</b><br>授業内でその都度紹介する   |      |      |       |
| <b>[教科書]</b><br>中学校学習指導要領 (必須文献)<br>高等学校学習指導要領公民科 (必須文献)   |   |      |      |       |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 社会科・公民科教育法 (旧社会科教育法)<br>(旧公民科教育法)  | 02  | 通 期  | 4 単位 | 宮 本 進 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br>21世紀初頭の世界は交通手段の発達、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化などの急激な変化の最中にあり、地球の人口は約61億人、主権国家は190余である。そんな中で約13億人が1日1ドルで生きよとしている。約8億人が飢えている。約12億人が安全な水を飲めない約10億人が読み書きが出来ないなど、すべてが豊かな生き方、暮らしが出来ている訳ではない。社会科・公民科の授業は現代的な課題に向き合う重要な教科だと言える。教員という立場の人間としてどう向き合うのか、生徒達にどう向き合わせるのか。これを基本的問題意識として提起しつつ、教科の役割と目的、教育課程の変遷、新教育課程の内容や教授方法などを考察しながら学習指導のあり方を研究する。<br>講義だけでなく、討論や、発表、模擬授業などを充分に取り入れた参加型の授業にしたい。 | <b>[講義計画]</b><br>1. はじめに＝講義概要など<br>2. どんな社会に生きてるのか<br>3. 学校教育の現在と生徒の現状<br>4. どんな教員になるのか<br>5. 戦後の中等社会・公民教育<br>6. 社会科・公民科の役割<br>7. 中等社会科教育の課題<br>8. ～10. 社会科学新指導要領の内容と授業<br>11. ～13. 公民科新指導要領の内容と授業<br>14. ～15. 模擬授業の準備と学習指導案の作成<br>16. ～25. 模擬授業<br>26. まとめ |      |      |       |
| <b>[成績評価の方法]</b><br>出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。  | <b>[参考文献]</b><br>授業の中で適宜紹介する  |      |      |       |
| <b>[教科書]</b><br>授業ノート・資料などをプリントして配布する。   |   |      |      |       |



| 科 目 名   | クラス | 講義区分   | 単位数  | 担 当 者 |
|---|-----|--|------|-------|
| 英語科教育法Ⅰ(旧英語科教育法)  |     | 通 期  | 4 単位 | 島田勝正  |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>英語教師志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論(シラバス論、授業計画)、指導方法論、指導技術論(4技能、文法、語彙)教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。<br/>単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを追求することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。<br/>本講義の主たる目的は、中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤に作り上げた「思い込み(belief)」から、解放し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検できる視点、観点を提供することにある。<br/>問題意識をもって授業に臨んでほしいので、毎回「課題」提出を課す。課された分担作業は責任をもって果たすこと。</p> |     | <p><b>[講義計画]</b><br/>1. ガイダンス 2. 教授・学習・評価(教授の役割) 3. 第二言語習得論1(習慣形成理論と創造的構築) 4. 第二言語習得論2(学習転移) 5. 第二言語習得論3(誤答分析) 6. 第二言語習得論4(インプット仮説) 7. 第二言語習得論5(形式教授の役割) 8. 言語能力の分類 9. 文法教授(意識化活動) 10. 第二言語習得論6(有標性理論、教授可能性理論) 11. 目標論1(コミュニケーション能力) 12. 目標論2(学習指導要領) 13. 指導方法論(各種指導法概観) 14. リスニング(背景知識の活性化) 15. コミュニカティブアプローチ(機能シラバスと教授法) 16. スピーキング(情報格差活動) 17. リーディング(発問の種類と方法) 18. ライティング、語彙(記憶術) 19. 授業案、授業分析 20. テスティング1(妥当性、信頼性) 21. テスティング2(テスト項目改善) 22. テスティング3(技能判断、項目分析) 23. マイクロティーチング1 24. マイクロティーチング2 25. マイクロティーチング3 26. 定期試験</p> |      |       |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>* 得点配分は以下の通り。(1) 課題提出(授業参加) 1回3点×12回=36点 遅刻=減点0.5点 (2) レポート24点 (3) 定期試験40点<br/>* 各学期2回を越えて欠席した場合、定期試験を無断で欠席した場合、レポートを提出しない場合は総合得点が基準点(60点)に到達していたとしても単位を認定しない。</p>  |     | <p><b>[参考文献]</b><br/>1. 白畑他(著)「英語教育用語辞典」大修館書店 1999<br/>2. Richards, J., J.Platt and H.Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Second Edition.</i> Longman 1992<br/>3. 青木(編)「英語授業実例事典Ⅰ,Ⅱ」大修館書店 1990,1994<br/>4. 山田、望月(編)「私の英語授業」大修館書店 1996<br/>5. 青木(編)「英語授業の組立て」開隆堂 1990</p>  |      |       |
| <p><b>[教科書]</b><br/>教科書は使用しないが、Course Notesとして、<br/>島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)</i><br/>を使用する。ガイダンス時に配布する。</p>   |     |  |      |       |

| 科 目 名   | クラス | 講義区分  | 単位数  | 担 当 者 |
|---|-----|---|------|-------|
| 商業科教育法(旧商業科教育法(2))  |     | 通 期   | 4 単位 | 松 原 勇 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>21世紀に入り、激動する変化社会の中、商業科教員を目指す学生を対象にした高等学校教員免許取得のための必修科目である。<br/>現代の商業教育は、グローバル・スタンダードを基に国際化・情報化に対応する人材の育成が急務である。近年、特に優れた職業倫理を身につけ、高度な専門的な知識・技術等の習得が不可欠である。学習指導要領では、産業社会の大きな変化に適応できる自己教育力の育成・心豊かな人間の育成等を目標にしている。その趣旨を踏まえ、将来教育に携わる者は、常に教育理念を念頭におき、商業教育の本質に立脚した姿勢と自覚をもって臨まなくてはならない。<br/>本講は、教育者としての人間力を磨くと共に産業社会の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に年間指導計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業など教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して講義する。</p> |     | <p><b>[講義計画]</b><br/>1 商業教育の意義と目的<br/>2 商業教育の変遷<br/>3 現在の高等学校の商業教育<br/>4 商業教育における国際化と情報化<br/>5 教育課程の編成<br/>6 学習指導法(模擬授業の展開)<br/>7 学習指導計画と教育評価<br/>8 教員の資質能力と研修制度<br/>9 職業資格制度と検定試験制度<br/>10 今後の商業教育の展望等</p> |      |       |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験なども勘案のうえ、総合評価とする。</p>  |     | <p><b>[参考文献]</b><br/>文部省(編)「高等学校学習指導要領」(商業編)(大日本図書)</p>   |      |       |
| <p><b>[教科書]</b><br/>松 原 勇(編著)「商業科教育法」(ぎょうせい)</p>  |     |   |      |       |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|--|---|------|------|---------|
| 道徳教育の研究  |   | 後 期  | 2 単位 | 徳 永 正 直 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b>   | <b>【講義計画】</b>   |      |      |         |
| <p>近年マスコミを賑わしている未成年者による凶悪犯罪や、援助交際、オヤジ狩り、学級崩壊、いじめ等の子どもたちの「荒れ」に対処するために、道徳教育のなお一層の充実強化が求められている。しかし、「道徳」授業の評判はあまり良くないようである。そこで何故「道徳」授業がつまらないのかを考え、さらに子どもたちの問題行動の背景と原因を、アリス・ミラーらの「反教育学」を手がかりに考察し、道徳性発達の理論に依拠した「道徳」授業の可能性を、教育的タクト論の視点から検討する。</p> <p>とかく問題が多いとされる「道徳」授業や道徳教育の課題設定のあり方について、各自が自分自身の見解を持つようになることが目標である。</p> | <p>①「教育」の重要性と危険性<br/>         ②「道徳」授業批判<br/>         ③子どもの問題行動を考える。1980年以後の問題行動の変遷<br/>         ④問題行動の原因と背景 アリス・ミラーらの「反教育学」の立場から<br/>         ⑤道徳教育の課題 学習指導要領の解説と問題点<br/>         ⑥道徳性発達の理論 ピアジェ、コールバーグ等<br/>         ⑦ジレンマ資料に基づく「道徳」授業の意義と問題点<br/>         ⑧実際の授業の展開（ビデオ視聴）<br/>         ⑨教育的タクトによる「道徳」授業の可能性<br/>         ⑩貧困問題と子どもの人権<br/>         ⑪この講義の総括と今後の課題の提示<br/>         なお、④⑥⑧についてはそれぞれ二時間かけて解説する。</p> |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b>   | <b>【参考文献】</b>   |      |      |         |
| 定期試験で評価する。   | 講義中にそのつど指示する。   |      |      |         |
| <b>【教科書】</b>   |   |      |      |         |
| 徳永・堤・宮嶋著『対話への道徳教育』（ナカニシヤ出版、1997年）  |   |      |      |         |

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|--|--|------|------|---------|
| 特別活動論<br>(旧教科外教育の研究Ⅰ)  | 0 1  | 後 期  | 2 単位 | 小 島 孝 敏 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b>   | <b>【講義計画】</b>  |      |      |         |
| <p>文部省は、中央教育審議会や教育課程審議会の答申を受け、「心の教育」の重要性を指摘し、「知識を教え込む教育から個性を尊重し生きる力を育む教育」への転換を目指す改革方針を打ち出しました。現場の創意工夫を重視した新学習指導要領が改定告示され、小・中学校では平成14年度から全面実施、高等学校では平成15年度から学年進行で実施されます。大阪府教育委員会も「教育改革プログラム」を発表し、再構築のための具体的な方策を提示しました。</p> <p>学校現場では、2002年から始まる新指導要領に向けての、移行措置を前提とした授業展開が求められています。学習内容が、1/3に削減され教科書もスリム化し、また、総合化という「総合的な学習活動」の新たな教科も新設されました。その教育課程編制のために、諸活動の再吟味や見直しが行われています。</p> <p>「学級活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事」で構成される特別活動は、集団活動を通じて調和のとれた豊かな人間形成に、重要な役割を果たしています。特に今回は、①ガイダンス機能の充実。②自然体験や社会体験の充実。③国際協調精神を培うことが強調されています。その教育目標の意図するところは、現代社会における閉ざされがちな子どもたちに、生活経験を開き社会関係能力の向上・改善を求めることにあります。その実現には、まず教師自身が目標で求められている諸能力を獲得する必要があり、現実の子どもたちを指導するための「理論と実践力」を持たねばなりません。</p> <p>この授業では、新指導要領改定の趣旨を学びながら、受講生自らの社会関係能力を涵養するとともに、特別活動の教育目標と内容を実践する場となります。基礎・基本については生徒指導の視点をベースにし、「各学校園の特色ある取組」の学習では、現場での見学・観察・補助活動などの体験的学習も採り入れてすすめます。限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り遅刻や早退のないことが望ましい。</p> | <p>1. 授業びらき：オリエンテーション。<br/>         ① 学習計画・班分け等。 ② 大阪の教育の現状と課題等。</p> <p>2. 新教育課程への移行期と改革の試み。<br/>         ① 歩みと改定の主旨。 ② 特別活動の内容と目標。<br/>         ③ 総合的な学習活動の対応。<br/>         ～（国際化・環境問題・少子高齢化社会等）。</p> <p>3. 各領域別の改革のポイント。<br/>         【学校行事・クラブ活動・学級活動・生徒（児童）会活動】。</p> <p>4. 各学校園の特色ある取組の事例～「あんな学校・こんな学校」VTR等。</p> <p>5～8. 体験学習「実地交流活動」～見学・観察・発表・補助活動等。</p> <p>9～10. 総合的学習の演習～特色ある活動の取組と実践例等。</p> <p>11. まとめ・プレゼンテーション等。</p> <p>12. テスト。</p> <p>☆課題レポート。<br/>         特別活動のうち、具体的な内容について一つ以上のプログラムに参加し、観察・補助活動を行う。その模様をレポートして提出する。書式は別に指定する。</p> |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b>   | <b>【参考文献】</b>  |      |      |         |
| 出席回数、授業内での小レポート、課題レポート、期末考査の結果等を総合して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価はしない。   | 授業中にプリントを配付する。<br>その他 授業の中で適宜紹介します。  |      |      |         |
| <b>【参考図書】</b>  |  |      |      |         |
| 特になし。<br>必要なプリント類は、用意します。  |  |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 特別活動論<br>(旧教科外教育の研究Ⅰ)   | 02   | 後 期  | 2 単位 | 宮 本 進 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br><br>21世紀初頭の世界は交通手段の発達、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化などの急激な変化の最中にある。さらに、少子化、核家族化などが進むなかで、集団活動や人間関係をつくることが不得意な生徒が増加していると言われる。これが生徒達の問題状況を生む背景ともなっている。特別活動は教科指導とともに教育課程に位置づけられている。その内容としてはホームルーム活動(中学校では学級活動)・生徒会活動・学校行事から構成される。目的は「集団や社会の一員としての態度を養うとともに、自己を生かす能力を養うこと」とされる。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、それぞれの内容について具体的な諸実践を考察し、特別活動のあり方を研究する。<br>講義だけでなく討論、発表等を取り入れた参加型の授業にしたい。 | <b>[講義計画]</b><br><br>1. はじめにー講義計画など<br>2. 新指導要領における特別活動の目標と内容<br>3. ～ 5.<br>ホームルーム活動<br>6. ～ 8.<br>生徒会活動<br>9. ～ 11.<br>学校行事<br>12. 必修クラブの廃止と部活動の意義<br>13. まとめ |      |      |       |
| <b>[成績評価の方法]</b><br><br>出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。   | <b>[参考文献]</b><br><br>授業の中で適宜紹介する   |      |      |       |
| <b>[教科書]</b><br><br>授業ノート・資料などをプリントして配布する。  |  |      |      |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|---|--|------|------|---------|
| 生徒指導法(旧教科外教育の研究Ⅱ)   | 01   | 前 期  | 2 単位 | 辻 川 信 孝 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br><br>今、子どもたちの実態は深刻である。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力をはじめ、さまざまな生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。<br>一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成、学校週5日制への対応等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改善の取り組みがすでに始まっている。<br>このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。<br>本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めていきたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより、問題解決に向けての考え方(法則性)を習得してもらいたい。<br>併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応(生徒指導の技術)と子どもたちに接する姿勢(生徒指導の心)を学びとってほしい。 | <b>[講義計画]</b><br><br>1. 授業開き、授業方法<br>2. 教育改革の流れ、「生徒指導」とは<br>3. 事例研究(生徒指導上の諸課題とその対応)<br>①対人関係能力の低下<br>②不登校<br>③いじめ<br>④授業崩壊、学級崩壊<br>⑤校内暴力<br>⑥性に関する問題行動<br>4. 「やる気を起こさせる」生徒指導<br>①楽しい授業づくり<br>②生き方としての進路指導<br>③地域連携、校種間連携<br>④学校カウンセリングの基礎と演習<br>5. まとめ |      |      |         |
| <b>[成績評価の方法]</b><br><br>出席状況、期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。   | <b>[参考文献]</b><br><br>授業の中で適宜紹介する。  |      |      |         |
| <b>[教科書]</b><br><br>毎時間、プリントを配布する。  |  |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 生徒指導法<br>(旧教科外教育の研究Ⅱ)   | 02   | 前期   | 2単位 | 宮本 進  |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>21世紀初頭の世界は交通手段の発達、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化などの急激な変化の最中にある。生徒達は将来への予測が難しく、目標が見えにくい。特に、将来の進路への漠とした不安の中にあるそれが生徒達の種々の問題状況を生む背景ともなっている。<br>生徒指導は教科指導以外の指導のことであり、その内容は学業指導・進路指導・個人的適応指導・社会性指導・余暇指導・健康、安全指導などの領域がある。究極の目的は「自らの生き方を構築する力の育成」にあると言える。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、生徒達の状況を踏まえ、進路指導の領域を中心に各領域について具体的な諸ケースの実践を考察し、生徒指導法のあり方を研究する。<br>講義だけでなく討論、発表等を取り入れた参加型の授業にしたい。 | <b>【講義計画】</b><br>1. はじめにー講義計画など<br>2. 教員達を取り巻く状況<br>3. 生徒達を取り巻く状況<br>4. 生徒指導とは何をするのか<br>5. 生徒を理解し生徒に自己を理解させるとは<br>6. ～8. 生徒指導の実際と原理・原則<br>9. ～12. 進路指導の実際と原理・原則<br>13. まとめ |      |     |       |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。   | <b>【参考文献】</b><br>授業の中で適宜紹介する   |      |     |       |
| <b>【教科書】</b><br>授業ノート・資料などをプリントして配布する。  |  |      |     |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分     | 単位数        | 担 当 者 |
|---|--|----------|------------|-------|
| 教育相談  | 01<br>02   | 前期<br>後期 | 2単位<br>2単位 | 林 陸雄  |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>中央教育審議会の答申に示された目標「『生きる力』を身に付け、新しい時代を切り拓く積極的な心、正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性をはぐむ」方策と呼応するのが、教員免許法の改定であり、新設された必修科目「教育相談」である。<br>現代社会の諸矛盾は直接・間接に子どもたちの生活に影響し、子どもたちを強いストレス下においている。その結果として、様々な神経症や心身症が小学生段階から現出している。これらの諸現象は、本人または家族に起因するとみられ勝ちであり、いっそう子どもたちを追い詰め苦しめている。<br>子どもたちが抱え込んでいる諸問題を教育相談という観点からとらえ直し、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談活動として位置づけたい。その機能を遂行するための基礎・基本について概説する。<br>なお、より理解を深めるために体験学習をも採用する予定である。教育相談機関での参観と実習も課外プログラムとして組む予定である。2クラスが開設されるが、受講生数に偏りがでると、授業展開が困難になるので、ほぼ同数に分散して登録されることを願っている。 | <b>【講義計画】</b><br>1. 授業びらき<br>2. 学校教育相談の概説<br>3. 学校教育相談の概説<br>4. 学校教育相談の組織・計画<br>5. 相談係の行う教育相談<br>6. 学級担任の行う教育相談<br>7. 個別面接のすすめ方<br>8. 個別面接のすすめ方<br>9. グループ面接のすすめ方<br>10. グループ面接のすすめ方<br>11. 親へのかかわり方<br>12. 学校教育相談の研修<br>13. 事例研究会のもち方とすすめ方<br>14. まとめ |          |            |       |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。<br>ただし、2/3以上の出席のないものは、評価の対象としない。   | <b>【参考文献】</b><br>授業中に、適宜紹介する。  |          |            |       |
| <b>【教科書】</b><br>今井 五郎 編著<br>『学校教育相談の実際』 学事出版  |  |          |            |       |

《 インテグレーション科目 》

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分           | 単位数               | 担 当 チ ー プ            |
|---|--|----------------|-------------------|----------------------|
| 教育実習  | 01<br>02<br>03   | 前期<br>前期<br>前期 | 3単位<br>3単位<br>3単位 | 島田勝正<br>冷水啓子<br>林 陸雄 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>教育実習とは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立って実地に検証するものである。これは、実習校での実地実習(2週間)とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」により求められた3単位となる。<br/>はじめは、学内での事前実習において、教育実習に臨むための基礎的な条件を再確認し、授業に必要な最低の理論と技術を習得する。次いで、教育の現場で、教員としての社会的責任を自覚したうえで、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。そこでは、実習上の要件を満たさない場合は、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価をしてもらえなくなることもあるので、学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、慎重に行動すること。第三に、再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験をふまえて模擬授業に臨む。また、他の実習生や本学卒業生の体験談などをもとに実地実習内容を再点検し、教職課程全体についての自己評価を行う。<br/>なお、この教育実習では、一貫して、教師としての基礎的条件に関する実地訓練がその基盤となる。したがって、事故または疾病などによる正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められないので注意すること。</p> | <p><b>[講義計画]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 事前実習：模擬授業</li> <li>3. 事前実習：模擬授業</li> <li>4. 事前実習：模擬授業</li> <li>5. 事前実習：模擬授業</li> <li>6. 事前実習：模擬授業</li> <li>7. 事前実習：模擬授業</li> <li>8. 実地実習</li> <li>9. 実地実習</li> <li>10. 事後実習：模擬授業</li> <li>11. 事後実習：模擬授業</li> <li>12. 事後実習：模擬授業</li> <li>13. 事後実習：本学卒業の教員による講話</li> <li>14. まとめ</li> </ol> |                |                   |                      |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>実習校による評価表、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会で総合的に評価する。</p>   | <p><b>[参考文献]</b><br/>池田、酒井、野里、宇井(編著)『教育実習総説』(学文社)<br/>白井、寺崎、黒澤、別府(編著)『教育実習57の質問』(学文社)</p>  |                |                   |                      |
| <p><b>[教科書]</b><br/>桃山学院大学教職課程委員会(編)<br/>『教職をめざして——教職課程履修ガイド[1996年度改訂版]——』</p>  |  |                |                   |                      |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者   |
|--|---|------|-----|---------|
| 同和教育論  | 01  | 通 期  | 4単位 | 黒 田 伊 彦 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>「人権教育のための国連10年」も半ばを過ぎ、国内行動計画の具体化による人権文化の確立が求められている。また、人権教育・啓発に関する法案が出されるようになり、人権教育の広がりや深さを支える同和教育のあり方が問われている。<br/>前期は差別とは何か、部落差別の現実と闘いの歩みから、部落解放の方策を明らかにする。<br/>後期は、同和教育の歩みから融和教育、同和教育、解放教育の違い。「いじめ」を克服する同和(解放)教育のあり方及び部落悲慘史論・低位性論を克服する部落問題学習のあり方を考察し、部落問題の教科書記述批判や学習教材、集団主義と仲間づくり、学力保障と進路保障、反戦平和教育と部落問題など、反差別・人権教育の現状と方向性を明らかにする。<br/>教員採用試験の同和・人権教育関係問題の演習を行う。<br/>教科書、補充プリント、映像資料を用いる。<br/>前期は島崎藤村の「破戒」の課題研究と読書感想文。原作と映画との比較についてのレポート提出を課す。<br/>後期は「いじめ」を克服する教師のあり方についての資料によるレポートを課す。<br/>人権教育(部落問題)の履修が望ましい。</p> | <p><b>[講義計画]</b></p> <p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「人権教育のための国連10年」と同和教育</li> <li>(2) 人権とは何か、差別とは何か 差別と偏見</li> <li>(3) 部落差別の現実と本質—部落差別が今も続いている理由</li> <li>(4) 部落の起源と部落差別との闘いの歴史</li> <li>(5) 部落の起源と身分制度、洪染一揆、全国水平社の教科書記述の検討</li> <li>(6) 部落解放の方策と同和(解放)教育の課題</li> </ol> <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 戦前の融和教育と戦後の同和教育の歩み</li> <li>(2) 同和教育、解放教育とは何か</li> <li>(3) 「いじめ」を克服する同和教育</li> <li>(4) 部落問題学習の基本視点と反差別集団の形成</li> <li>(5) 部落悲慘史論を克服する教材研究</li> <li>(6) 教員採用試験の同和・人権関係問題の演習</li> </ol> |      |     |         |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>前期はテストと「破戒」に関するレポートと出席点で評価する。<br/>後期はテストと「いじめ」に関するレポートと出席点によって評価する。<br/>出席を重んじる。</p>   | <p><b>[参考文献]</b><br/>黒田 伊彦(著) 『部落史紀行』(柘植書房新社)<br/>中尾 健次・森 実(編) 『同和教育の理論』(東信堂)<br/>部落解放研究所(編) 『戦後同和養育の歴史』(解放出版社)<br/>山田 隆夫(著) 黒田 伊彦(解説) 『自己教育論』(新泉社)</p>   |      |     |         |
| <p><b>[教科書]</b><br/>黒田 伊彦(著) 『改訂 部落問題学習16講』(柘植書房新社)</p>  |   |      |     |         |

| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|---|---|------|------|---------|
| 同和教育論   | 02  | 通 期  | 4 単位 | 寺 木 伸 明 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br><p>本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そして、そもそも同和教育は必要なのか、について議論をしたい。</p> <p>次に、現在、被差別部落出身の子供たちをとりまく、なまなましい差別の実情について、具体例をあげながら説明する。そうした現実をふまえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育の実践が行われているのか、を校対する。その際、実際、中学校と高校の先生にゲスト講師で来ていただき、教育現場での取り組みを報告していただく予定である。</p> <p>つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果をふまえて講義する。</p> <p>同和教育の現在の問題点や課題などについても受講生諸君と議論をしながら確かめていきたい。視聴覚教材も活用したいと考えている。</p> <p>できるだけ人権問題Ⅵ（部落問題）を履修しておくことが望ましい。</p> | <b>[講義計画]</b><br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同和教育とは何か</li> <li>2. 同和教育は必要か</li> <li>3. 教育における部落差別の実情</li> <li>4. 中学校における同和教育の実践例（ゲスト講師予定）</li> <li>5. 同和教育の歴史</li> <li>6. 部落問題学習の進め方</li> <li>7. 高校における同和教育の実践例（ゲスト講師予定）</li> <li>8. 同和教育の問題点と課題</li> </ol> |      |      |         |
| <b>[成績評価の方法]</b><br><p>前期は、レポート、後期は試験の評価を基本に、授業への参加態度を加味して総合的に評価する。</p>   | <b>[参考文献]</b><br><p>解放出版社編『部落問題 資料と解説』（解放出版社）</p>   |      |      |         |
| <b>[教科書]</b><br><p>中野隆次他著『同和教育への招待』 解放出版社</p>   |   |      |      |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者   |
|--|---|------|-----|---------|
| 視聴覚教育  |   | 後 期  | 2単位 | 冷 水 啓 子 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br><p>情報化社会の進展に伴って、人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭、学校、地域社会において、ケーブル・テレビ、衛星放送、字幕番組などの普及により、テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また、さまざまな電子メディアが導入され、日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて、情報の検索や受信を行うだけでなく、情報発信さえも容易にできるようになり、時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため、このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し、利用し、作り出す能力（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の育成が、新たな教育課題として重要視されるようになった。</p> <p>そこで、この「視聴覚教育」では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習およびプレゼンテーション教材の作成を行う。講義や実習に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。</p> <p>受講生の主体的・積極的な参加を期待している。</p> | <b>[講義計画]</b><br><ol style="list-style-type: none"> <li>1 視聴覚教育および視聴覚教育メディアの変遷 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か</li> <li>2) 活字・印刷物の利用：テキスト、絵本、児童書など</li> <li>3) テレビとビデオの利用：その利用形態と社会・教育的役割 <ol style="list-style-type: none"> <li>①幼児教育番組</li> <li>②字幕や手話通訳つき番組</li> <li>③子どもの発達や健康への影響</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2 コンピュータの発展と教育利用（コンピュータ実習を含む） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コンピュータ・ゲーム：子どもの発達と学習への影響</li> <li>2) 教育へのコンピュータ利用：CAI、CMI</li> <li>3) 電子メールやインターネットの利用</li> <li>4) コンピュータ・リテラシーや情報活用能力の育成</li> <li>5) コンピュータ利用をめぐる教育・社会的問題</li> </ol> </li> <li>3 視聴覚教育メディアの活用：プレゼンテーション教材の作成</li> </ol> <p>[但し、講義や実習の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]</p> |      |     |         |
| <b>[成績評価の方法]</b><br><p>出席および講義や実習への参加を重視する。学期末に、作成したプレゼンテーション教材およびレポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>   | <b>[参考文献]</b><br><p>赤堀侃司（著）『学校教育とコンピュータ』（NHKブックス）<br/> 情報教育学研究会 他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房）<br/> 水越敏行・佐伯胖（編）『変わるメディアと教育のありかた』（ミネルヴァ書房）<br/> （財）日本視聴覚教材センター（編）『視聴覚教材メディアの活用』<br/> 永田元康 他（著）『情報教育概論』（コロナ社）<br/> 高島秀之（編）『マルチメディア教育』（有斐閣選書）</p>  |      |     |         |
| <b>[教科書]</b><br><p>桃山学院大学計算機センター（編）『ユーザーズガイド』</p>  | <p>他</p>  |      |     |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分       | 単位数        | 担 当 者   |
|--|---|------------|------------|---------|
| 生涯学習概論   | 01<br>02  | 前 期<br>後 期 | 2単位<br>2単位 | 伊 藤 正 純 |
| [講義概要・学習目標]  | [講義計画]  |            |            |         |
| <p>1960年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習が提唱されてきたのは、先進国では急速な技術革新と高齢化の進展によって成人に対する学習機会の提供が経済的・文化的に必要となり、後進国では貧困から脱出するために子どもだけでなく大人の学習も不可欠だという考えに基づく。本講義では、このような国際的動向を踏まえて、生涯学習大国・スウェーデンの成人教育制度（リカレント教育、教育休暇制度、学習サークル等）を紹介し、それとの対比で日本の「生涯学習社会」のあり方と現状（大学拡張＝エクステンション、大学開放、学校開放、自治体の生涯学習事業、市民大学等）を明らかにするつもりである。</p> | <p>1. 生涯学習とは何か<br/>ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論</p> <p>2. 生涯学習の国・スウェーデンでの実験<br/>リカレント教育原理の考案、コミュニオン成人教育、国民高等学校<br/>高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、成人教育奨学金制度、<br/>学習サークル</p> <p>3. 日本の「生涯学習社会」のあり方と現状<br/>(1)臨教審答申、生涯学習振興法<br/>(2)生涯学習機関としての大学<br/>(3)地方自治体の取り組み</p> |            |            |         |
| [成績評価の方法]  | [参考文献]  |            |            |         |
| <p>司書および学芸員資格取得科目であるので、出席を重視する。毎回、授業の感想を書いてもらう。評価は8割をこの感想文で、2割を期末の試験で行う。なお、20分を超えた遅刻は認めない。</p>   | <p>1. 黒沢惟昭編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社<br/>2. 赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部<br/>3. 倉橋史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社</p>   |            |            |         |
| [教科書]  |   |            |            |         |
| <p>使用しない。</p>  |   |            |            |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者   |
|---|--|------|-----|---------|
| 図書館通論   |  | 前期   | 2単位 | 西 田 文 男 |
| [講義概要・学習目標]   | [講義計画]   |      |     |         |
| <p>図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をすることかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに重点を置く。ここでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。まとめとして「図書館の自由」と図書館経営について論じ、図書館世界の将来、電子図書館やバーチャルライブラリーについて検討する。</p> <p>図書館を構成する要素のうち最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。</p> | <p>1. 図書館とはなにか<br/>2. 図書館の果たす役割<br/>3. 情報の伝達と図書館<br/>4. 社会、生涯学習と図書館<br/>5. 図書館の構成要素<br/>6. 図書館の種類（館種）<br/>7. 公共図書館：理念<br/>8. 公共図書館の歴史と現代<br/>9. 公共図書館の利用者<br/>10. 図書館の自由<br/>11. 図書館経営<br/>12. まとめ</p> |      |     |         |
| [成績評価の方法]   | [参考文献]   |      |     |         |
| <p>定期試験の成績によって評価する。</p>   |  |      |     |         |
| [教科書]   |  |      |     |         |
| <p>志保田 務編著「図書館概論」（樹村房）</p>  |  |      |     |         |



| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 図書館経営論  |  | 後期   | 2 単位 | 西田文男  |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br>生涯学習社会における図書館という観点を重視して、図書館経営に関わる組織、管理、運営、各種計画について解説する。 | <b>[講義計画]</b><br>1. 図書館経営の在り方<br>2. 自治体行政と図書館<br>3. 図書館の組織と管理・運営<br>4. 図書館長・館員の責務および研修<br>5. 図書館サービス計画の意義と方法<br>6. 図書館の整備計画と施設、設備、備品<br>7. 図書館業務・サービスの評価<br>8. 情報ネットワークの形成の意義と方法 |      |      |       |
| <b>[成績評価の方法]</b><br>定期試験の成績によって評価する。  | <b>[参考文献]</b><br>その都度指示する。   |      |      |       |
| <b>[教科書]</b><br>竹内紀吉「図書館経営論」 教育史料出版会  |  |      |      |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 図書館サービス論  |  | 前 期  | 2 単位 | 上 田 格 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br>図書館はサービス機関である。本講義では主として公立図書館における住民へのサービス活動を取りあげる。(ただし児童サービス、情報サービスは除く)<br>各サービスの意義・特質・方法および実践上の留意点を述べるとともに、現代の図書館が直面している諸課題についても言及する。 | <b>[講義計画]</b><br>1. 図書館サービスの理念と意義<br>2. 図書館サービスの計画と評価<br>3. 図書館サービス発展の軌跡<br>4. 図書館サービスの種類<br>5. 利用者対象別のサービス<br>6. 図書館サービスと著作権法<br>7. 図書館サービスのネットワーク<br>8. 図書館サービスと「自由」の問題<br>9. 図書館サービスと住民参加 (ボランティアを含む)<br><br>なお 必要に応じて授業にビデオを上映するが、受講生はできるだけ複数の公立図書館を見学・利用することをお勧めする。 |      |      |       |
| <b>[成績評価の方法]</b><br>定期試験(筆記)を行って評価する。   | <b>[参考文献]</b><br>『公立図書館の任務と目標解説』増補版 日本図書館協会<br>『図書館はいま 白書・日本の図書館 1997』日本図書館協会<br>『われらの図書館』前川恒雄著 筑摩書房   |      |      |       |
| <b>[教科書]</b><br>『図書館サービス論』塩見 昇編著 教育史料出版会  |  |      |      |       |

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者   |
|--|--|------|-----|---------|
| 情報サービス概説   |  | 前期   | 2単位 | 西 田 文 男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 除法サービス一般の広がり、図書館が行う情報サービスの位置づけ</li> <li>2. 図書館における情報サービスの意義と種類</li> <li>3. 情報および情報探索行動についての基本的理解</li> <li>4. レファレンスプロセス</li> <li>5. 情報検索サービスの方法・プロセス・評価</li> <li>6. 重要な参考図書、データベースの解説と評価</li> <li>7. 参考図書およびその他の情報源の組織</li> <li>8. 各種情報源の特徴と利用法</li> </ol> |      |     |         |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績によって評価する。</p>   | <p>[参考文献]</p>  |      |     |         |
| <p>[教科書]</p> <p>西田文男監修 志保田 務・平井尊志編著<br/>「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」 学芸図書</p>          |  |      |     |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|-------|
| 情報サービス演習   |   | 後期   | 1単位 | 西田文男  |
| <p>[演習概要・学習目標]</p> <p>参考図書その他の情報源の利用や作成、レファレンス質問の回答処理の演習を通して、実践的な能力の養成を図る。</p> | <p>[演習計画]</p> <p>タイプの異なる各種の演習問題を課し、回答を作成してもらい、発表してもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書に関する質問</li> <li>2. 逐次刊行物に関する質問</li> <li>3. ことばに関する質問</li> <li>4. ことがらに関する質問</li> <li>5. 歴史に関する質問</li> <li>6. 地理に関する質問</li> <li>7. 人物・団体に関する質問</li> </ol> |      |     |       |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績と発表の内容等によって評価する。</p>                                | <p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>  |      |     |       |
| <p>[教科書]</p> <p>西田文男監修 志保田 務・平井尊志編著<br/>「情報サービス（概説とレファレンスサービス演習）」 学芸図書</p>     |   |      |     |       |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 チ ー フ |
|--|---|------|------|-----------|
| 情報検索演習   | 01  | 後 期  | 1 単位 | 藤 間 真     |
| <p><b>[演習概要・学習目標]</b></p> <p>現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特に、ネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。</p> <p>本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。</p> <p>レポート提出および連絡を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用を習得していることを前提とする。</p> <p>連絡は掲示を通じて行うので、常に掲示に留意すること。</p> <p>試聴期間に講義が無いことの代替措置については、試聴期間に掲示する。その代替措置によって講義の詳細も掲示する。後期科目ではあるが、履修を検討する諸君は試聴期間から掲示に注意すること。</p> <p>尚、コンピュータ利用技能に関して不安のあるものは5月に予定されている計算機センターガイダンスに出席することを強く推薦する。</p> | <p><b>[演習計画]</b></p> <p>下記の項目に関してそれぞれ講義した上で演習を行う。</p> <p>☆情報検索リテラシー</p> <p>☆データベース入門</p> <p>日経テレコム, 日外アシスト, TRCなど</p> <p>☆データベース実用<br/>jois, DIRALOG 等</p> <p>☆データベースまとめ</p> <p>☆情報検索基礎能力試験</p> |      |      |           |
| <p><b>[成績評価の方法]</b></p>  | <p><b>[参考文献]</b></p> <p>随時指示します。</p>  |      |      |           |
| <p><b>[教科書]</b></p> <p>『情報検索術：情報検索、情報処理の楽々実行』 志保田務[ほか]編著 学芸図書</p>  |   |      |      |           |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|---|--|------|------|---------|
| 情報検索演習  | 02   | 後 期  | 1 単位 | 中 崎 修 一 |
| <p><b>[演習概要・学習目標]</b></p> <p>現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特に、ネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。</p> <p>本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。</p> <p>レポート提出および連絡を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用を習得していることを前提とする。</p> | <p><b>[演習計画]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報化社会と情報メディア</li> <li>2. 情報検索概説</li> <li>3. 一時情報と二次情報</li> <li>4. データベース基礎</li> <li>5. 情報検索の論理</li> <li>6. インターネットと情報検索</li> <li>7. 情報検索の実際：図書情報</li> <li>8. 情報検索の実際：雑誌情報</li> <li>9. 情報検索の実際：新聞情報</li> <li>10. 情報検索の実際：学術情報</li> <li>11. 情報検索の実際：その他</li> <li>12. まとめ</li> </ol> |      |      |         |
| <p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>レポート、筆記試験、出席から総合的に判断する</p>   | <p><b>[参考文献]</b></p> <p>志保田務・平井専士編著『情報機器論・特論：メディアの活用 12 章』（第一法規）</p> <p>『情報検索の基礎』第2版（情報科学技術協会）</p> <p>『最新オンライン情報源活用法』（日外アソシエーツ）</p>  |      |      |         |
| <p><b>[教科書]</b></p> <p>志保田務・平井専士・中崎修一編著『情報活用術：情報検索・情報処理の楽々実行 ―サーチ・システムアドミニストレータへの入門路―』（学芸図書）</p>  |  |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 情報検索演習  | 03   | 前期   | 1単位 | 平井 尊士 |
| <p><b>[演習概要・学習目標]</b></p> <p>図書館では情報検索の意義が今日重視されている。利用者に対し、各種データベースに含まれる情報を迅速・的確にどのようにサービスするかがポイントとなる。取り扱う内容も、図書単位から、情報へと多様化している。</p> <p>さらに「情報科学」というような複合研究領域の中で「情報検索」は複合的な知識が求められる。</p> <p>そこでインターネットを中心としたネットワークおよび情報機器を有効に活用しながら、情報検索が図書館業務全体の中でいかにあるべきか演習を通して習得することが目的である。</p> <p>この授業の受講をはじめには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと。</p> <p>●電子メールアドレスを取得しておくこと</p> | <p><b>[演習計画]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報社会と図書館</li> <li>2. 図書館情報学における情報検索</li> <li>3. 情報検索を取り巻く情報環境（ネットワーク知識）</li> <li>4. インターネットを利用するということは</li> <li>5. データベース利用（1）</li> <li>6. データベース利用（2）</li> <li>7. 課題テーマを通しての枠組みの構築（1）</li> <li>8. 課題テーマを通しての枠組みの構築（2）</li> <li>9. 課題作成（1）</li> <li>10. 課題作成（2）</li> <li>11. まとめ</li> </ol> |      |     |       |
| <p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する</p>  | <p><b>[参考文献]</b></p> <p>志保田務・平井尊士編著『図書館と情報機器・特論』（第一法規 1999）<br/>『情報管理入門』（情報科学技術協会）<br/>海野敏・影浦峡・戸田慎一『学術情報と図書館』（雄山閣 1999）</p>  |      |     |       |
| <p><b>[教科書]</b></p> <p>志保田務・平井尊士編著『情報活用術』（学芸図書 2000）</p>  |  |      |     |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者   |
|---|--|------|-----|---------|
| 図書館資料論  |  | 後期   | 2単位 | 西 田 文 男 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。</p> | <p><b>[講義計画]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館資料論</li> <li>2. 図書館資料の種類</li> <li>3. 資料の生産と流通</li> <li>4. 資料の選択</li> <li>5. 図書館の自由</li> <li>6. 電子資料、電子情報</li> <li>7. ネットワーク</li> <li>8. インターネット</li> <li>9. 著作権</li> <li>10. 公貸権</li> <li>11. まとめ</li> </ol> |      |     |         |
| <p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>定期試験の成績によって評価する。</p>   | <p><b>[参考文献]</b></p>   |      |     |         |
| <p><b>[教科書]</b></p> <p>志保田 務〔ほか〕編著<br/>「資料メディア論：図書館資料論、専門資料論、資料特論」 学芸図書</p>                 |  |      |     |         |

| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 専門資料論   |   | 前期   | 2 単位 | 松永 俊男 |
| <p>[講義概要・学習目標]<br/>人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。</p> | <p>[講義計画]<br/>1. 学術文献とはなにか<br/>2. 分野の特徴と学術文献<br/>3. 学術雑誌の特徴<br/>4. 学術文献の歴史<br/>5. 雑誌 <u>nature</u> について<br/>6. 学術における不正<br/>7. 二次資料について<br/>8. 百科辞典について</p> |      |      |       |
| <p>[成績評価の方法]<br/>平常点と最終テストを総合して評価する。</p>                                    | <p>[参考文献]</p>   |      |      |       |
| <p>[教科書]</p>  |   |      |      |       |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 資料目録法  |   | 前期   | 2 単位 | 北 克 一 |
| <p>[講義概要・学習目標]<br/>資料組織法の中心である目録法の意義・目的と方法、図書館資料の目録法について学習する。目録対象に理解を持ち、目録の基本構造や書誌コントロールの意義を把握し、書誌ユーティリティの機能を理解することを主眼とする。<br/>さらに最近のOPACやインターネットの検索エンジンで提供されている全文検索の仕組みの基礎や、ネットワーク情報資源の目録作成の動きも対象とする。</p> | <p>[講義計画]<br/>前半で記述の基盤、記述の単位、記述の要素、アクセスポイントの付与と管理など目録法の基礎的概念を、日本目録規則を中心に扱う。<br/>後半ではコンピュータ目録を中心に取り上げ、書誌コントロールの歴史、現状、典拠ファイルの役割などについて非逐次刊行物/逐次刊行物/電子資料を例として取り上げて講義を進める。</p> |      |      |       |
| <p>[成績評価の方法]<br/>ミニ・テストおよび最終レポート</p>   | <p>[参考文献]<br/>根本彰著『文献世界の構造』勁草書房</p>   |      |      |       |
| <p>[教科書]<br/>志保田務、高鷲忠美著『資料組織法』（最新版）、第一法規</p>   |   |      |      |       |

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|--|--|------|------|---------|
| 資料分類法  |  | 前 期  | 2 単位 | 濱 崎 邦 子 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>資料組織法の原則と明らかにし、その基礎となる分類法について、分類の意義と機能、主要分類法・日本十進分類法の概要、分類作業と分類コードについて詳述し、さらに件名法、図書記号法についても講述する。そして、分類法と件名法に共通する主題検索の基本的な考え方を学んでもらう。 | <b>【講義計画】</b><br>1. 資料組織の意義と目的<br>2. 分類の意義と機能<br>3. 書誌分類と書架分類<br>4. 知識の分類と図書の分類<br>5. 図書分類表の条件<br>6. 世界の主要分類法<br>7. 日本十進分類法の解説<br>8. 日本十進分類法の適用<br>9. 分類記号の与え方と分類規定<br>10. 件名法と基本件名標目表の解説<br>11. 別置法、図書記号法<br>12. 書架上の配列 |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>出席と定期試験  | <b>【参考文献】</b>  |      |      |         |
| <b>【教科書】</b><br>『資料組織法』第4版 志保田務、高鷲忠美共著 第一法規<br>『図書館資料の目録と分類』増訂版 日本図書館研究会編 日本図書館研究会   |  |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分       | 単位数          | 担 当 者 |
|---|--|------------|--------------|-------|
| 資料目録法演習   | 0 1<br>0 2   | 後 期<br>後 期 | 1 単位<br>1 単位 | 北 克 一 |
| <b>【演習概要・学習目標】</b><br>資料目録法で学習した目録規則、典拠コントロールなどを実際の目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。<br>コンピュータを操作して目録演習を行うので、キーボード操作、マウス操作、かな漢字変換などについては、事前に自己学習しておくことが望ましい。 | <b>【演習計画】</b><br>書誌ユーティリティを使用しての目録演習が中心となるが、週及変換入力にも対応できるようにカード目録演習もあわせて取り上げる。<br>作成した機械可読目録を加えて、各人のOPACを構築し検索演習を行う。 |            |              |       |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>演習課題提出と最終理解度テスト   | <b>【参考文献】</b><br>永田治樹『学術情報と図書館』丸善<br>井上如〔ほか〕著『学術情報サービス』丸善  |            |              |       |
| <b>【教科書】</b><br>北克一著『資料組織演習－書誌ユーティリティ、コンピュータ目録』改訂新版, M. B. A  |  |            |              |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|---|--|------|------|---------|
| 資料分類法演習   |  | 後 期  | 1 単位 | 濱 崎 邦 子 |
| <b>【演習概要・学習目標】</b><br>資料分類法(理論)にもとづき分類作業・件名作業の実際について演習し、その実践的・応用的能力の育成を図る。ほぼ毎授業が『資料組織法演習問題集』に従った課題を出し、次の授業時に解答と求める。 | <b>【演習計画】</b><br>1. 分類作業・件名作業について<br>2. 分類記号の付与<br>① 補助表の適用<br>② 一般分類規定の適用<br>③ 総記・習字・歴史部門<br>④ 社会科学部門<br>⑤ 自然科学・技術部門<br>⑥ 産業・美術部門<br>⑦ 言語・文学部門<br>⑧ 特殊分類規定の適用<br>3. 件名探目の付与<br>4. 図書記号の付与 |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>平常点と定期試験  | <b>【参考文献】</b><br>『日本十進分類法』 新訂9版 日本図書館協会<br>『基本件名探目表』 第4版 日本図書館協会   |      |      |         |
| <b>【教科書】</b><br>『資料組織法』 第4版 志保田 務、高鷲忠美 共著 第一法規<br>『資料組織法・別冊 演習問題集 赤版』 第2版 志保田 務、高鷲忠美 編 第一法規                         |  |      |      |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|--|---|------|------|---------|
| 児童サービス論  |   | 前 期  | 2 単位 | 清 水 昭 治 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>この科目は、図書館における「児童サービス論」です。図書館、特に公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと区別しており、赤らせん・幼児向けの絵本から、小学生・中学生までの幅広い本が準備されています。まず、この現象を学びます。少子化時代に入り、絶大多數の子供の減少と共に、社会的事件の中での子供達が注目されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を工夫する児童サービスの重要性を学びます。生涯教育が上げばかりの中で、図書館の必要性は、ますます増大します。そのとき、図書館利用が、習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。 | <b>【講義計画】</b><br>講義と共に、具体的に、実際に、形勢に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。<br>又、ビデオ・スライドなどを活用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びます。            |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や平常成績と併せて総合評価します。  | <b>【参考文献】</b><br>参考文献は、講義の中で、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを視察していただくこと。           (はじめは、少し、躊躇しますが、一經、体験すれば、一般向の図書館と同じように利用できることと思います。 |      |      |         |
| <b>【教科書】</b>   |   |      |      |         |



| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 図書及び図書館の歴史  |   | 後 期  | 2 単位 | 上 田 格 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>人類の体外記憶媒体である図書は、依然として図書館資料の中心の位置をしめている。その図書の歴史の変遷をたどり最新の電子資料にいたる歩みを概説する。<br>次に、それら各種のメディアの保管・提供場所であった図書館が、一部特権階級の人たちの占有物であった時代から、広く一般大衆に開放されるまでの、思想的・制度的変遷の経緯をわかりやすく講義する。 | <b>【講義計画】</b><br>1. 記録の誕生と図書の歴史<br>2. 印刷の歴史<br>3. 非図書の出現<br>4. 古代の図書館<br>5. 中世の図書館<br>6. 近世の図書館<br>7. 近代図書館の先駆け<br>8. 近代公共図書館の誕生<br>9. 日本の近代図書館の歩み<br>10. 日本の近代図書館の歩み 続 |      |      |       |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>定期試験（筆記）を行って評価する  | <b>【参考文献】</b><br>『図書館 その本質・歴史・思潮』増補版 岡田 温著 丸善<br>『近代図書館の歩み』森 耕一著 至誠堂<br>『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会   |      |      |       |
| <b>【教科書】</b><br>『図書館の話』森 耕一著 至誠堂（至誠堂選書）   |   |      |      |       |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 チ ー フ |
|---|--|------|------|-----------|
| 資料特論  |  | 後期   | 2 単位 | 松永 俊男     |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。 | <b>【講義計画】</b><br>1. はじめに<br>2. 行政資料について<br>3. 情報公開制度について<br>4. 公文書館について<br>5. 視聴覚資料について<br>6. CD-ROMの利用<br>7. 郷土資料について<br>8. まとめ |      |      |           |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>講師それぞれの評価（テストまたはレポート）を総合して評価する。   | <b>【参考文献】</b>  |      |      |           |
| <b>【教科書】</b>  |  |      |      |           |

| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 情報機器論   |   | 後 期  | 2 単位 | 藤間 真  |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年の図書館は、単なる紙の集積ではない。色々な情報機器によって装備されている。そのことは、本学の図書館に1歩入って周りを見渡すだけでわかるであろう。言い換えると、情報機器に関する知識はこれからの司書にとって不可欠の知識である。</p> <p>本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。</p> <p>具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。</p> <p>連絡は掲示を通じて行うので、常に掲示に留意すること。</p> <p>試聴期間に講義が無いことの代替措置については、試聴期間に掲示する。その代替措置によって講義の詳細も提示する。参考文献に関する注意事項も本来であれば試聴期間の講義で提示すべきものである。ここで提示する。</p> <p>後期科目ではあるが、履修を検討する諸君は試聴期間から掲示に注意すること。</p> | <p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報とは</li> <li>・情報を機械で扱うとは</li> <li>・図書館で使われる情報機器</li> <li>・情報処理システムの基礎知識</li> <li>・パソコンの基礎知識</li> <li>・視聴覚機器とプレゼンテーション</li> </ul> |      |      |       |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。</p>  | <p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。<br/>尚、講義に必帯とはしないが、<br/>志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用第一法規</p>  |      |      |       |
| <p>[教科書]</p> <p>志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用第一法規</p>  | <p>に目を通すことは要求する。<br/>詳細は、試聴期間に予定している内容提示で行う。</p>  |      |      |       |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー プ |
|--|--|------|-----|-----------|
| 図書館特論  |  | 前 期  | 2単位 | 藤間 真      |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は、本学図書館を題材として図書館について学ぶことを受講生に提供する。本学図書館という学生諸君にとって一番身近な図書館を例にとることによって図書館学で学んだ知識に具体的な肉付けをすることを目標とする。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>下記の項目に関して、それぞれ講義した上で本学図書館の施設を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆図書館の入口</li> <li>☆図書館のカウンター</li> <li>☆OPAC</li> <li>☆複写とその周辺</li> <li>☆視聴覚メディア</li> <li>☆データベースサービスと電子図書館</li> <li>☆電動書架とエレベータ</li> <li>☆発注とコンピュータシステム</li> <li>☆目録とコンピュータシステム</li> <li>☆ILLとコンピュータシステム</li> <li>☆図書館管理とコンピュータ</li> <li>☆コンピュータと保守管理</li> </ul> |      |     |           |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況及び実習の成果物の提出により評価する。</p>  | <p>[参考文献]</p>  |      |     |           |
| <p>[教科書]</p> <p>志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用第一法規</p>   |  |      |     |           |

| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| 学校図書館論Ⅰ（学校経営と学校図書館）   |   | 9月集中 | 2単位 | 吉田 憲一 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>97年6月、長年の懸案であった学校図書館法が改正された。様々な問題を残しながらの改正であるが、これをこれからの学校図書館の充実に向けてどのように生かしていくかが今後の課題である。</p> <p>この授業では、「学校の中の図書館」としての学校図書館がもつ特有の機能（指導的機能）と、図書館自体がもつ共通的な機能（奉仕機能）を留意しつつ、学校図書館の意義と役割を全般的に学んでもらう。</p> <p>そこでは、学校図書館の主要な構成要素である人、施設、資料について、その経営（運営・管理）的な要素が中心となる。</p> <p>前半部分では、主として学校図書館の意義や役割について、後半部分では、学校図書館を掌理する司書教諭の役割および施設についてを、講義内容の柱として進めていく。</p> <p>また、ビデオを利用して、学校図書館のいきいきとした活動の実際も学んでもらうこととする。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校図書館の理念と教育的意義</li> <li>2. 学校図書館関連法規・基準</li> <li>3. 学校図書館法解説</li> <li>4. 学校図書館の歴史</li> <li>5. 学校図書館の経営：人、施設、資料、予算など</li> <li>6. 学校図書館の運営・管理</li> <li>7. 司書教諭の役割</li> <li>8. 学校図書館の施設</li> <li>9. 学校図書館の活動とネットワーク</li> </ol> |      |     |       |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>中間期のレポートおよび最終講義時のテスト結果で評価する。</p>  | <p>[参考文献]</p> <p>塩見昇著 『学校図書館論』（教育史料出版会）<br/>（新編図書館学教育資料集成9）<br/>全国学校図書館協議会編刊 『司書教諭の任務と役割』<br/>学校図書館活性化研究会編 『学校図書館の活用実践事例集』 第一法規</p>   |      |     |       |
| <p>[教科書]</p> <p>福永義臣編著 『学校経営と学校図書館』（樹村房）<br/>（学校図書館実践テキストシリーズ3）</p>   |   |      |     |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者   |
|---|--|------|-----|---------|
| 学校図書館論Ⅱ（学校図書館メディアの構成）   |  | 前 期  | 2単位 | 中 崎 修 一 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報化社会において、学校図書館は単なる書架的役目ではなく、様々な情報メディアを取り扱う情報伝達機関となった。本講義ではまず学校図書館と情報化社会におけるメディアについて論じ、各種メディアの種類と特性を解説する。さらに、メディアの構成・組織化の実際について解説し、学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校図書館メディアの種類と特性</li> <li>●学校図書館メディアの選択と構成</li> <li>●学校図書館メディアの組織化<br/>（資料配列法、資料目録法）</li> <li>●学校図書館メディアの利用環境</li> </ul> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校図書館とメディア</li> <li>2. 種類と特性</li> <li>3. 構成・組織化</li> <li>4. 分類の意義と機能</li> <li>5. 目録の意義と機能</li> <li>6. 作目録</li> <li>7. 目録の編成</li> <li>8. 集中・共同目録作業</li> <li>9. 学校図書館メディアの維持管理</li> <li>10. 学校図書館メディアの利用環境</li> <li>11. まとめ</li> </ol> |      |     |         |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、筆記試験、出席から総合的に判断する</p>  | <p>[参考文献]</p> <p>志保田務 [ほか] 『資料組織法』第4版（第一法規）</p>  |      |     |         |
| <p>[教科書]</p> <p>木原通夫・志保田務『分類・目録法入門（新改訂第2版）：メディアの構成』（学芸図書）</p>   |  |      |     |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|-------|
| 学校図書館論Ⅲ（学習指導と学校図書館）  |   | 前期   | 2単位 | 林 陸 雄 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>           学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに見合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。この講義では、計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。<br/>           授業の展開に当たっては、現場で実践されている先生を、ゲスト講師として適宜お招きする。</p> | <p><b>[講義計画]</b><br/>           1. 授業びらき<br/>           2. 学校図書館の新しい役割1<br/>           3. 学校図書館の新しい役割2<br/>           4. 発達段階と学習指導<br/>           5. メディア活用能力の育成1<br/>           6. メディア活用能力の育成2<br/>           7. メディア活用能力も育成3<br/>           8. 情報サービス<br/>           9. レファレンス・サービス<br/>           10. 情報の収集と提供<br/>           11. 情報サービスとネットワーク活用<br/>           12. まとめ（テスト）</p> |      |     |       |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>           出席状況、授業毎の小レポート、ならびに定期試験の結果を総合して評価する。</p>  | <p><b>[参考文献]</b><br/>           授業中に適宜紹介する。</p>   |      |     |       |
| <p><b>[教科書]</b><br/>           志村尚夫監修<br/>           朝比奈大作 編著『学習指導と学校図書館』、樹村房</p>  |   |      |     |       |

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|-----|-------|
| 学校図書館論Ⅳ（読書と豊かな人間性）   |  | 後期   | 2単位 | 林 陸 雄 |
| <p><b>[講義概要・学習目標]</b><br/>           子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。<br/>           この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性豊かな醸成に資する学校図書館活動の基本と実際についてとりあげる。<br/>           なお、授業の展開に当たっては、ゲスト講師を適宜お招きする。</p> | <p><b>[講義計画]</b><br/>           1. 読書と人間1<br/>           2. 読書と人間2<br/>           3. 発達段階と読書<br/>           4. 中学生と読書<br/>           5. 読書指導<br/>           6. 学校図書館の整備と運営<br/>           7. 読書資料の種類と整理1<br/>           8. 読書資料の種類と整理2<br/>           9. 図書館情報と案内<br/>           10. 地域関連機関との協力<br/>           11. 読み聞かせ、ストーリーテリング<br/>           12. まとめ（テスト）</p> |      |     |       |
| <p><b>[成績評価の方法]</b><br/>           出席状況、授業毎の小レポート、定期試験の結果を総合して評価する。</p>  | <p><b>[参考文献]</b><br/>           授業中に適宜紹介する。</p>  |      |     |       |
| <p><b>[教科書]</b><br/>           志村尚夫 監修<br/>           赤星 隆子 編著『読書と豊かな人間性』、樹村房</p>  |  |      |     |       |

| 科 目 名   | クラス | 講義区分  | 単位数  | 担 当 者   |
|---|-----|---|------|---------|
| 社会学   |     | 通 期   | 4 単位 | 清 水 夏 樹 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br>集団、組織、ネットワーク、地域社会、福祉文化といった基礎概念をまなぶことから始め、社会学的な<br>の見方・とらえ方とはどういうことかを理解できるように概説する。とくに、「共同体」から「協同体」へ<br>た、「ハード」から「ソフト」へ、という情報化社会の動向を軸に、情報通信技術の高度化にともなう諸<br>をとりあげ、現代社会の光と影―健康面と病理面―を照射してみたい。日常的な話題やトピックスに眼を向<br>つつも、現代社会を生み出した歴史性とアイデンティティの基礎基盤を問う姿勢を忘れずに学んでほしい。 |     | <b>[講義計画]</b><br>前期：社会的自我の形成、期待と役割、言葉とコミュニケーション<br>役割と組織、集団と社会的行動、文化と行動様式<br>共同体社会と集合表象、準拠集団の弾力性レベル<br><br>後期：階層と階級、宗教と社会、中産階層と市民社会<br>情報ネットワーク化と文化的協同体、消費社会と新しい集団<br>弾力性 |      |         |
| <b>[成績評価の方法]</b><br>年度末試験。簡易レポート、簡易テストと随時参照する   |     | <b>[参考文献]</b><br>授業中に指示する。  |      |         |
| <b>[教科書]</b>  |     |   |      |         |

| 科 目 名   | クラス | 講義区分   | 単位数  | 担 当 者 |
|---|-----|--|------|-------|
| 医学一般  |     | 通 期  | 4 単位 | 郭 麗月  |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br>1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。<br>2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。<br>3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。<br>4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。<br>5 公衆衛生の概要を理解させる。<br>6 保健医療対策の概要を理解させる。<br>7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。<br>8 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 |     | <b>[講義計画]</b><br>1 人体の構造・機能<br>2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要<br>3 医学的リハビリテーションの概要<br>4 現代社会と疾病<br>1) がん、生活習慣病<br>2) 各種感染症<br>3) 神経・精神疾患<br>4) 先天性疾患<br>5) 難病<br>6) その他<br>5 公衆衛生の現状<br>1) 人口動態<br>2) 疾病と受療状況<br>3) 医療関係者<br>4) 医療施設<br>6 保健医療対策の現状<br>7 医事法制と保健・医療機関及び専門職<br>1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要<br>2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方 |      |       |
| <b>[成績評価の方法]</b><br>レポート、定期試験の成績で評価する。  |     | <b>[参考文献]</b><br>適時紹介する。   |      |       |
| <b>[教科書]</b><br>福祉士養成講座編集委員会編<br>社会福祉士養成講座14「医学一般」（中央法規）  |     |  |      |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分       | 単位数        | 担 当 者            |
|---|--|------------|------------|------------------|
| 介護概論  | 01<br>02   | 後 期<br>後 期 | 2単位<br>2単位 | 川井 太加子<br>佐瀬 美恵子 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。</p> <p>2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。</p> <p>3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。</p> <p>4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 介護の目標、機能及び範囲<br/>1) 介護の原則、目標、機能及び範囲<br/>2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割<br/>3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割<br/>4) 健康維持のメカニズム<br/>5) 終末期の介護<br/>6) 介護過程の展開</p> <p>2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本<br/>1) 住生活環境の安全管理（感染防止）<br/>2) 食事<br/>3) 排泄<br/>4) 衣服の着脱<br/>5) 入浴・身体の清潔と感染防止<br/>6) 移動空間の確保<br/>7) 健康習慣の獲得<br/>8) 体力の維持（運動と機能維持）<br/>9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）<br/>10) 療養時の対応<br/>11) 緊急・事故等の対応<br/>12) 介護家族への生活維持援助<br/>13) 福祉用具の活用</p> <p>3 介護関係維持のための技法<br/>1) 健康や生活の観察技法<br/>2) コミュニケーションの技法<br/>3) 記録と情報の共有化の技法<br/>4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健師等医療専門職との連携のあり方<br/>5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方</p> <p>4 介護活動の場に特有な問題と技法<br/>1) 家庭<br/>2) 施設</p> |            |            |                  |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートに出席状況を加味して評価する。</p>   |  |            |            |                  |
| <p>[教科書]</p> <p>『介護概論』、『新・社会福祉学習双書』編集委員会／編<br/>全国社会福祉協議会 中央福祉学院</p>   | <p>[参考文献]</p> <p>その都度紹介する。</p>   |            |            |                  |

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|-----|-------|
| 精神医学   |  | 通 期  | 4単位 | 岡田 章  |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。</p> <p>2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。</p> <p>3 精神医学の概念について理解させる。</p> <p>4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。</p> <p>5 代表的な精神障害について理解させる。</p> <p>6 治療の概要について理解させる。</p> <p>7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 精神医学、精神医療の歴史<br/>2 脳および神経の生理・解剖<br/>3 精神医学の概念<br/>1) 精神医学の概念<br/>2) 精神障害の成因と分類</p> <p>4 診断法<br/>1) 診断の手順と方法<br/>2) 精神症状と状態像<br/>3) 心理検査と身体的検査</p> <p>5 代表的な精神障害<br/>1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）<br/>2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害<br/>3) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害<br/>4) 気分（感情）障害<br/>5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害<br/>6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群<br/>7) 成人の人格および行動の障害</p> <p>8) 精神遅滞<br/>9) 心理的発達の障害<br/>10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害</p> <p>6 治療法<br/>1) 身体的療法<br/>①薬物療法とその副作用<br/>②電気ショック療法<br/>2) 精神療法<br/>3) 環境・社会療法<br/>4) 精神科リハビリテーション</p> <p>7 病院精神医療および地域精神医療<br/>1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）<br/>2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）<br/>3) 地域精神医療</p> |      |     |       |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>前期レポート、後期試験を予定</p>   | <p>[参考文献]</p> <p>適時提示する予定</p>  |      |     |       |
| <p>[教科書]</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー 第1巻 『精神医学』（へるす出版）</p>  |  |      |     |       |

| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 精神科リハビリテーション学   |   | 通 期  | 4 単位 | 瀧本 優子 |
| [講義概要・学習目標]   | [講義計画]  |      |      |       |
| 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。<br>2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。<br>3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。<br>4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。<br>5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。 | 1 精神科リハビリテーションの概念<br>1) リハビリテーションの概念と歴史<br>2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則<br>3) 精神科リハビリテーションの概念<br>4) 精神科リハビリテーションの理念と意義<br>5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法<br>6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状<br>2 精神科リハビリテーションの構成<br>1) 精神科リハビリテーションの対象<br>2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割<br>3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携<br>4) 精神科リハビリテーションの施設<br>①病院リハビリテーション施設等<br>②社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所 グループホーム、地域生活支援事業など）<br>③精神保健福祉センター及び保健所<br>④その他の協力機関、支援団体<br>5) 精神科リハビリテーションの関連領域<br>3 精神科リハビリテーションのプロセス<br>1) リハビリテーション計画<br>2) アプローチの方法<br>①病院におけるリハビリテーション<br>②社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション<br>③地域におけるリハビリテーション<br>3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション<br>4 医療機関におけるリハビリテーション<br>1) 作業療法およびレクリエーション療法<br>2) 集団精神療法<br>3) 行動療法<br>4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）<br>5) 家族教育プログラム<br>6) デイケアおよびナイトケア<br>7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導<br>5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション<br>1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション<br>①集団精神療法における精神保健福祉士<br>②生活技能訓練における精神保健福祉士<br>③デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士<br>2) 社会的リハビリテーション<br>①日常生活への適応のための訓練<br>②社会復帰のための相談・助言・指導<br>6 精神科リハビリテーションの総合化<br>1) 地域リハビリテーション<br>①地域ネットワーク<br>②ケアマネジメント<br>③地域生活支援事業と訪問援助<br>④家族会および自助グループ<br>⑤ボランティアの育成と活用<br>2) 職業リハビリテーション<br>3) 精神保健福祉施設と精神科リハビリテーション |      |      |       |
| [成績評価の方法]   | [参考文献]  |      |      |       |
| 通年にわたり数回のレポート提出で理解度を評価する。<br>必要に応じて、前期・後期に分けて筆記試験を行う。   | 『わが国の精神保健福祉』（精神保健福祉士協会）<br>『変わりゆく精神保健福祉』（医学書林）<br>『地域生活支援のSST』（医学書院）  |      |      |       |
| [教科書]   | 『精神科リハビリテーション学』（へるす出版）  |      |      |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者                    |
|---|--|------|------|--------------------------|
| 精神保健福祉論   |  | 通 期  | 4 単位 | (前期) 栄 セツコ<br>(後期) 柏木 一恵 |
| [講義概要・学習目標]   | [講義計画]   |      |      |                          |
| 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。<br>2 精神障害者の人権について理解させる。<br>3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。<br>4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。<br>5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。<br>6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。<br>7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。 | 1 障害者福祉の理念と意義<br>①障害者福祉の理念<br>②ノーマライゼーション<br>③リハビリテーション<br>④生活の質（QOL）<br>⑤生活支援<br>2) 障害及び障害者<br>①障害の概念<br>②障害分類（国際障害分類を含む）<br>③精神障害の特性<br>3) 障害者福祉の基本施策<br>①障害者基本法<br>②障害者プラン<br>4) 現代社会と精神障害者<br>①精神障害者の概念<br>②精神障害者と家族<br>③精神障害者と地域社会<br>④精神障害者のノーマライゼーション<br>2 精神障害者の人権<br>1) 精神障害者の権利擁護<br>2) 精神医療における権利擁護<br>3) インフォームドコンセント<br>4) 地域社会における精神障害者の人権<br>3 精神保健福祉士の理念と意義<br>1) 精神保健福祉の歴史と理念<br>2) 精神保健福祉士の意義<br>3) 精神保健福祉士の対象<br>4) 精神保健福祉士の専門性と倫理<br>4 精神障害者に対する相談援助活動<br>1) 精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）<br>2) 精神障害者の主体性の尊重<br>3) 相談援助活動の方法<br>①医療施設における相談援助活動<br>②社会復帰施設等における相談援助活動<br>③地域社会における相談援助活動<br>4) 相談援助活動の事例<br>5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律<br>1) 精神保健福祉法の意義と内容<br>2) 精神保健福祉士法の意義と内容<br>3) 関連法について<br>6 精神保健福祉施策の概要<br>1) 精神保健福祉に関する行政組織<br>2) 精神保健福祉に係る公的負担制度（公費負担医療等）<br>3) 精神保健福祉施策の課題<br>①精神障害者福祉対象<br>②社会復帰対策<br>4) 精神保健福祉における社会資源<br>①精神障害者福祉に関わる専門職との連携<br>②社会資源<br>7 精神保健福祉の関連施策<br>1) 雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）<br>2) 所得保障<br>3) 経済負担の軽減<br>4) 生活環境の改善 |      |      |                          |
| [成績評価の方法]   | [参考文献]   |      |      |                          |
| 出席日数、レポート   | 『我が国の精神保健福祉』<br>監修 厚生省大臣官房障害保健福祉部精神保健福祉課<br>発行 厚健出版株式会社  |      |      |                          |
| [教科書]   | 『精神保健福祉論』（へるす出版）   |      |      |                          |



| 科 目 名   | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者                   |
|---|---|------|------|-------------------------|
| 精神保健福祉援助技術各論  |   | 通 期  | 4 単位 | (前期) 重野 勉<br>(後期) 中本 明子 |
| [講義概要・学習目標]   | [講義計画]  |      |      |                         |
| 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的な事例に基づき理解させる。<br>2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的な事例に基づき理解させる。<br>3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的な事例に基づき理解させる。<br>4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的な事例に基づき理解させる。<br>5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的な事例に基づき理解させる。 | 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）<br>1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術<br>2) 個別援助技術の実際と適用分野<br>3) 個別援助技術におけるスーパービジョン<br>4) 具体的事例検討<br>2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）<br>1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術<br>2) 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）<br>3) 集団援助技術におけるスーパービジョン<br>4) 具体的事例検討<br>3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）<br>1) 地域援助技術の概念と基本的性格<br>2) 地域援助技術の具体的展開<br>①ノーマライゼーションの推進と住民参加<br>②社会資源の活用と開発<br>③地域社会における連携と調整機能<br>④家族会、自助グループの支援<br>⑤ボランティア等地域マンパワーの育成と活用<br>⑥地域援助<br>3) 具体的事例検討<br>4 精神障害者のケアマネジメント<br>1) ケアマネジメントの原則<br>①ケアマネジメント<br>②適用と対象<br>③人権への配慮<br>2) ケアマネジメントの意義と留意点<br>①ケアマネジメントの意義と留意点<br>②関係機関との連携<br>3) ケアマネジメントのプロセス<br>①受理面接（インテーク）<br>②ニーズの把握とその評価<br>③目標設定と計画的実施<br>④包括的サービスの実現<br>4) チームケアとチームワーク<br>5) 具体的事例検討<br>5 精神障害者援助と関連専門職種との連携<br>1) チーム医療における精神保健福祉士の役割<br>2) 専門職等の役割と機能<br>3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割<br>4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス |      |      |                         |
| [成績評価の方法]   | [参考文献]  |      |      |                         |
| 授業中の態度（積極性・能動性等）、出席状況、レポート、期末試験を総合的にみて評価する。   | 『わが国の精神保健福祉』（精神保健福祉研究会）<br>『変わりゆく精神保健、医療、福祉』（医学書林）  |      |      |                         |
| [教科書]   |   |      |      |                         |
| 『精神保健援助技術各論』（へるす出版）   |   |      |      |                         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 精神保健福祉援助演習   |   | 通 期  | 4 単位 | 郭 麗月  |
| [講義概要・学習目標]  | [講義計画]  |      |      |       |
| 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的な事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。<br>2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。 | 精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個人に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。<br>1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上るようにする。<br>2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。<br>3 実技指導等<br>(1) 面接実技指導<br>(2) 記録実技指導<br>(3) 集団実技指導<br>(4) 評価・効果測定実技指導<br>4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。<br>5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。 |      |      |       |
| [成績評価の方法]  | [参考文献]  |      |      |       |
| 出席、課題への取り組み状況、レポートなどで総合的に評価する。   | 適時紹介する。   |      |      |       |
| [教科書]  |   |      |      |       |
| 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編<br>精神保健福祉士養成セミナー 第7巻 『精神保健福祉援助演習』<br>(へるす出版)   |   |      |      |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 精神保健福祉援助実習  | 01   | 通 期  | 6単位 | 郭 麗月  |
|   | 02   | 通 期  | 6単位 | 安原 佳子 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。</li> <li>2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。</li> <li>3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。</li> <li>4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。</li> <li>5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。</li> </ol> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習オリエンテーション</li> <li>2 視聴覚学習</li> <li>3 現場体験学習</li> <li>4 見学実習（急性期病棟など）</li> <li>5 専門援助技術実習指導</li> <li>6 リハビリテーション実習指導</li> <li>7 配属実習</li> <li>8 全体総括</li> </ol> |      |     |       |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>全出席（学内・学外）を条件とする。実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。</p>   | <p>[参考文献]</p> <p>適時紹介する。</p>   |      |     |       |
| <p>[教科書]</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編<br/>精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習』<br/>（へるす出版）</p>  |  |      |     |       |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者   |
|---|--|------|-----|---------|
| 英語音声学   |  | 通 期  | 4単位 | 南 條 健 助 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、実践音声学を重視する英国学派音声学の伝統に従い、英語の音声と知覚の両面から科学的に研究することを目標とする。<br/>実践音声学とは、自分の耳で聞いた聴覚印象や、自分で調音した際の音声器官の状態や筋肉運動を知覚するといった自己観察に基づいて、音声を記述し分析する音声学の研究方法の一つである。したがって、この講義では、まず第一に、英語の音声を正確に聞き取ると共に、聞き取った音声を、個々の母音・子音ばかりでなく、そのつながり方や強勢・リズム・音調に至るまで忠実に再現し、発音した時に自分の舌や唇あるいは喉などがどのような動きをしているかを感じ取ることができる能力を身に付けてもらう。授業では、そのための音声学訓練にかなりの時間を割くことになる。また、そのような訓練と並行して、毎週少しずつ英語の音声理論を勉強していく。<br/>なお、テキストは主として練習問題を利用するために用いることにし、口述が講義の中心となるので、受講生諸君は話を聞きながら各自でノートを取ることを求められる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>（詳しい講義計画表は授業中に配布する。）</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入門編</li> <li>2. 強勢とリズム</li> <li>3. 音調</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母音</li> <li>2. 子音</li> <li>3. 音のつながり</li> <li>4. 発展編</li> </ol> |      |     |         |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験（50%）、発音テスト（20%）、提出課題（20%）、出席状況や授業態度（10%）を総合して評価する。なお、前期・後期それぞれ4回以上欠席した者には単位は与えられない。授業中、私語をする受講生は即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。</p>  | <p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>   |      |     |         |
| <p>[教科書]</p> <p>竹林滋・斎藤弘子『改訂新版 英語音声学入門』<br/>大修館書店 1998年（本体価格 2,200円）</p>   |  |      |     |         |

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|--|--|------|------|---------|
| 日本語教授法Ⅰ  |  | 通 期  | 4 単位 | 有 川 康 二 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとつての）実践的な文法整理と（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。<br>一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば、週 15 時間の約 6 か月）に日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となる。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか、何故、自分は日本語を外国語として教えるのか」という問いを問い続けなくてはならない。 | <b>【講義計画】</b><br>指示表現（こそあど）、形容詞（美しい／元気だ）、存在表現（いる／ある）、時制（テンス）（食べる／食べた）、保留形（読んで）、保留形の連続、保留形＋補助動詞（書いている）、願望の助動詞（たい／たがる／ほしい／ほしがる）、可能態（読める）、意志形（読もう）、様態の助動詞（雨が降りそうだ）、推量の助動詞（ようだ／らしい）、保留形＋補助動詞（窓が開いている／窓が開けてある／窓を開けてある／窓を開けておく）、授受表現（やる／あげる／さしあげる／もらう／いただく／くれる／くださる）、受動態（食べられる）・使役態（食べさせる）・使役受身態（食べさせられる）、条件表現（雨が降ると行く／雨が降れば行く／雨が降ったら行く／雨が降るなら行く）、敬語 |      |      |         |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>出席・筆記試験  | <b>【参考文献】</b><br>三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）   |      |      |         |
| <b>【教科書】</b><br>東京 YMCA 日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）  |  |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分       | 単位数          | 担 当 者   |
|---|--|------------|--------------|---------|
| 日本語教授法Ⅱ   | 0 1<br>0 2   | 前 期<br>後 期 | 2 単位<br>2 単位 | 友 沢 昭 江 |
| <b>【講義概要・学習目標】</b><br>日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では、日本語教育において教科書や教材がどのような役目を果たすかを考えるとともに、実際に市販されている教科書を詳しく分析します。 | <b>【講義計画】</b><br>授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて教科書を分析し、その結果を発表します。  |            |              |         |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>学期末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがってのレポート作成、および出席状況（半期 1 3 回の授業なので、基本的には全出席を望みます）を総合的に考慮して評価を行います。   | <b>【参考文献】</b><br>『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）<br>『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社）<br>『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社）<br>市販の日本語教科書 |            |              |         |
| <b>【教科書】</b><br>特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）   |  |            |              |         |

| 科 目 名  | クラス   | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|--|---|------|------|---------|
| 日本語教授法Ⅲ  |   | 通 期  | 2 単位 | 友 沢 昭 江 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br><p>本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、<u>原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。</u></p>         | <b>[講義計画]</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。</li> <li>・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。</li> <li>・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。</li> <li>・実際の日本語授業を見学したり、希望者には夏期休暇中には学外(国内・海外)での教育実習(希望者)を行います。</li> </ul>   |      |      |         |
| <b>[成績評価の方法]</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめるほか、適宜出される課題もそこに書き込み、一月間に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを欠点を含む、授業への貢献度の材料として判断します。</li> <li>・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。)</li> </ul> | <b>[参考文献]</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研)</li> <li>『概説日本語教育』(遠藤織枝編、三修社)</li> <li>『日本語教授法』(石田敏子、大修館書店)</li> <li>『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス)</li> <li>『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク)</li> <li>『日本語教育への道』(土城哲他、凡人社)</li> <li>『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社)</li> <li>『日本語の地平線』(吉田彌壽夫古稀記念論集編集委員会、くろしお出版)</li> </ul> |      |      |         |
| <b>[教科書]</b><br><p>教員の用意する配付物を使います。</p>  |   |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者   |
|---|--|------|------|---------|
| 博物館概論   |  | 後 期  | 2 単位 | 松 永 俊 男 |
| <b>[講義概要・学習目標]</b><br><p>学芸員資格課程の基幹科目である。最初の授業で、学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的はなにかについて、見取り図を提供する。続く前半の講義では、さまざまな代表的な博物館について、映像資料を利用して理解を深める。後半の授業では、博物館機能論など、博物館にかかわる諸問題を概観し、最後に現在の日本の博物館の課題について考察する。</p> | <b>[講義計画]</b><br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. なにを学ぶのか</li> <li>2. 博物館の歴史</li> <li>3. 世界の代表的な博物館</li> <li>4. 日本の代表的な博物館</li> <li>5. 近畿の代表的な博物館</li> <li>6. ユネスコ世界遺産</li> <li>7. 博物館の機能(1)</li> <li>8. 博物館の機能(2)</li> <li>9. 博物館の利用</li> <li>10. 博物館の制度</li> <li>11. 日本の博物館の現状と課題</li> <li>12. テスト</li> </ol> |      |      |         |
| <b>[成績評価の方法]</b><br><p>毎回、授業の最後に小テストを実施する。これと期末テストの結果を総合して評価する。5回以上欠席した者は、理由の如何を問わず除籍する。</p>  | <b>[参考文献]</b>  |      |      |         |
| <b>[教科書]</b><br><p>広瀬隆人(編)『博物館学基礎資料』樹村房(2001年)</p>  |  |      |      |         |

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 博物館学各論  |  | 通 期  | 4 単位 | 水 口 薫 |
| <b>〔講義概要・学習目標〕</b><br>近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性と相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。本講義では「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」を内容とする。<br>博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育普及活動および情報の意義と活用方法についての理解を図る。適時ビデオ資料を使用する。 | <b>〔講義計画〕</b><br>(前期)「博物館経営論」<br>1 博物館の機能、組織、施設の基本的な考え方<br>「博物館資料論」<br>1 博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化<br>2 博物館資料の保存、展示（常設展示、企画展示）<br>3 資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識<br>(後期)「博物館経営論」<br>2 ミュージアム・マネージメント<br>3 教育普及活動、ワークシート、ミュージアム・グッズ<br>「博物館情報論」<br>1 博物館における情報の意義、提供について<br>2 情報データベース、インターネットの活用方法 |      |      |       |
| <b>〔成績評価の方法〕</b><br>出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート、定期試験にて総合評価。前・後期とも欠席6回の者は名簿抹消。   | <b>〔参考文献〕</b><br>適時、プリントを配布。<br>その他、講義の時に提示する。   |      |      |       |
| <b>〔教科書〕</b><br>大堀 哲・小林達雄・端 信行・諸岡博熊（編）<br>『ミュージアム・マネージメント<br>博物館運営の方法と実践』（東京堂出版 1996年）<br>加藤有次・椎名仙卓（編）『博物館ハンドブック』<br>（雄山閣 1993年（3版））  |  |      |      |       |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名   | クラス  | 講義区分 | 単位数  | 担 当 チ ー フ |
|---|--|------|------|-----------|
| 博物館実習Ⅰ  |  | 9月集中 | 1 単位 | 松永 俊男     |
| <b>〔講義概要・学習目標〕</b><br>博物館資料の取り扱いや展示に関する基礎的なことを大学内、および学外の施設で実習する。分野ごとに専門の教員が分担して指導する。<br>予定している実習は、「文書資料の取り扱い」、「パソコンを利用した視覚資料の作成」、「顕微鏡観察」、「土器の復元」、および「考古遺物の実測」である。 | <b>〔講義計画〕</b><br>9月の集中講義期間内に、5日間、連続で実施する。<br>詳細な日程は、追って発表する。 |      |      |           |
| <b>〔成績評価の方法〕</b><br>全出席が原則である。おもに実習ノートによって評価する。   | <b>〔参考文献〕</b>  |      |      |           |
| <b>〔教科書〕</b>  |  |      |      |           |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名   | クラス   | 講義区分  | 単位数 | 担 当 チ ー プ |
|---|---|-------|-----|-----------|
| 博物館実習Ⅱ  |   | 集中コース | 1単位 | 松永 俊男     |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>博物館の多様性を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認をする。土曜、日曜、または休暇中に実施する。総計で12回、実施するが、そのうち4回は両コース共通、コース別にそれぞれ4回である。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。<br/>両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、なにわの海の時空館、国立民族学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館。<br/>産業文化コース：交通科学博物館、ガス科学館、JCCコーヒー博物館など。<br/>東洋文化コース：大阪府立弥生文化博物館、堺市博物館、大阪城天守閣、和泉市久保惣記念美術館。</p> |       |     |           |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>おもに実習ノートによって評価する。</p>   | <p>[参考文献]</p>   |       |     |           |
| <p>[教科書]</p>  |   |       |     |           |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名  | クラス  | 講義区分  | 単位数 | 担 当 チ ー プ |
|--|--|-------|-----|-----------|
| 博物館実習Ⅲ   |  | 集中コース | 1単位 | 松永 俊男     |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>指定した博物館で5日間程度の館務実習を行う。実習先の博物館としては、高野山霊宝館、和泉市いずみの国歴史館、堺市博物館、トヨタ博物館、産業技術記念館、ガス科学館、なにわの海の時空館、などを予定している。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>4月のガイダンス時に、各人の実習博物館の指定を行う。実習は夏期休暇中に行われるが、その具体的日時や実習内容は、博物館によって大幅に異なる。</p> |       |     |           |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>実習館の評価表と実習ノートに基づいて行う。</p>  | <p>[参考文献]</p>  |       |     |           |
| <p>[教科書]</p>   |  |       |     |           |



「大学英語入門A」使用教科書一覧

| クラス | 担当者             | 対象             | 著者名                                   | 使用教科書  | 出版社                      |
|-----|-----------------|----------------|---------------------------------------|--|--------------------------|
| 01  | 本山道子            | 〈スポーツ推薦クラス〉    | Dale Fuller                           | <i>Airwaves</i>  | Macmillan Language House |
| 11  | 橋本英司            | 経済<br>〈再履修クラス〉 | Haruo Kizuka<br>Roger Northridge      | <i>Common Errors in English Writing New Edition</i>                                  | Macmillan Language House |
| 12  | 岡田章子            | 経済<br>〈再履修クラス〉 | Timothy Minton                        | <i>Listening Corner</i>  | 成美堂                      |
| 13  | 佐々木英哲           | 経済<br>〈再履修クラス〉 | Paul Mclean<br>David A. Trokeloshvili | <i>Survival English 1: The Sounds of New York</i><br><i>Basic Practice for TOEFL</i> | 朝日出版社<br>学書房             |
| 14  | 大石正晴            | 経済<br>〈再履修クラス〉 | Nicholas Sampson                      | <i>Move Ahead</i>  | Macmillan Language House |
| 15  | 西崎和子            | 経済<br>〈再履修クラス〉 | 湯舟英一 他                                | <i>Listening Hour</i>  | 金星堂                      |
| 16  | 上村淳子            | 経済             | 熊井信弘<br>Stephen Timson                | <i>Hit Parade Listening</i>  | Macmillan Language House |
| 17  | Daniel M. Walsh | 経済             | Gershory S. & Mares, C.               | <i>Sound Bytes Book 1</i><br>ISBN0-13-096642-8                                       | Prentice Hall<br>ELT     |
| 18  | Daniel M. Walsh | 経済             | Gershory S. & Mares, C.               | <i>Sound Bytes Book 1</i><br>ISBN0-13-096642-8                                       | Prentice Hall<br>ELT     |
| 19  | 後藤正次            | 経済             |                                       | プリント   |                          |
| 20  | 後藤正次            | 経済             |                                       | プリント   |                          |
| 21  | 前田淑江            | 経済             | Herman Bartelen<br>Sean Reedy         | <i>Listening Power 1</i>   | Macmillan Language House |
| 22  | 前田淑江            | 経済             | Herman Bartelen<br>Sean Reedy         | <i>Listening Power 1</i>   | Macmillan Language House |



| クラス | 担当者   | 対象             | 著者名   | 使用教科書   | 出版社                             |
|-----|-------|----------------|---|---|---------------------------------|
| 23  | 本山道子  | 経済             | Dale Fuller   | <i>Airwaves</i>   | Macmillan Language House        |
| 24  | 山科美和子 | 経済             | Kim R. Kanel  | <i>Enjoy Pop Songs</i><br>その他授業時に指示   | 成美堂                             |
| 25  | 横山三鶴  | 経済             | John S.Lander   | <i>Discover</i><br><i>-Exploring a Variety of Things-</i>                         | 成美堂                             |
| 26  | 横山三鶴  | 経済             | John S.Lander   | <i>Discover</i><br><i>-Exploring a Variety of Things-</i>                         | 成美堂                             |
| 27  | 渡邊真理子 | 経済             | Dale Fuller<br>Shari J. Berman  | <i>Airwaves</i><br><i>Topic by Topic TOEIC Listening</i>                          | Macmillan Language House<br>成美堂 |
| 31  | 杉田トモ子 | 社会<br>〈再履修クラス〉 | 石井隆之・中川 昭<br>Thomas Koch<br>Shari J. Berman,<br>Alice L. Bratton,<br>Phillip R. Brown,<br>Makoto Hayasaka | <i>Enjoy Learning the TOEIC Test</i><br><br><i>Topic by Topic TOEIC Listening</i> | 三修社<br>成美堂                      |
| 32  | 出原博明  | 社会<br>〈再履修クラス〉 |   | プリント  |                                 |
| 33  | 野原康弘  | 社会<br>〈再履修クラス〉 | M. Terauchi (編)   | <i>Focus On Skillful Reading</i>  | 三修社                             |
| 34  | 林宅男   | 社会<br>〈再履修クラス〉 |   | プリント教材  |                                 |
| 35  | 木村博是  | 社会             | B. Heaton   | <i>Vocabulary &amp; Reading Skills</i>  | 英潮社                             |
| 36  | 木村ゆみ  | 社会             | 角岡賢一  | 基礎からの大学英語 (仮題)  | 松柏社                             |
| 37  | 木村ゆみ  | 社会             | 角岡賢一  | 基礎からの大学英語 (仮題)  | 松柏社                             |
| 38  | 坂本姫子  | 社会             | M. Rost<br>N. Kumai   | <i>Progress in Listening</i>  | Lingual House                   |
| 39  | 坂本姫子  | 社会             | M. Rost<br>N. Kumai   | <i>Progress in Listening</i>  | Lingual House                   |
| 40  | 遠山淳   | 社会             | Kiggell, T. &<br>Donald, H.   | <i>Cubic Listening : Surprise, Surprise</i>                                       | Macmillan Language House        |

| クラス | 担当者                | 対象             | 著者名   | 使用教科書  | 出版社                            |
|-----|--------------------|----------------|---|--|--------------------------------|
| 41  | 中村祥子               | 社会             | Toru Nishimoto,<br>Wendy Feltham                      | <i>One World, Many Views :<br/>Understanding Others' Opinions</i>                          | 南雲堂                            |
| 42  | 西崎和子               | 社会             | 小林栄智<br>Patricia K. Flanigan                          | <i>Practice in English Reduced Forms<br/>Focus on Listening Part I</i>                     | 三修社<br>松柏社                     |
| 43  | 橋本英司               | 社会             |   | プリント教材<br><i>City of Angel</i>   |                                |
| 44  | Philip Billingsley | 社会             |   | 使用しない  |                                |
| 51  | 遠山 淳               | 社会福祉           | Kiggell, T. &<br>Donald, H.                           | <i>Cubic Listening : Surprise,<br/>Surprise</i>  | Macmillan<br>Language<br>House |
| 52  | Kathryn L. マルヤマ    | 社会福祉           | Kenny, Tom<br>Woo, Linda                              | <i>Nice Talking With You</i>   | Macmillan<br>Language<br>House |
| 53  | Michael Carroll    | 社会福祉           | Marc Hegelsen,<br>Steven Brown &<br>Thomas Mandeville | <i>1. English Firsthand 1<br/>&amp;<br/>2. English Firsthand 2</i>                         | Tokyo :<br>Longman             |
| 61  | 金城盛紀               | 経営<br>〈再履修クラス〉 | House   | <i>The Carpenters 22 Hits</i>  | 成美堂                            |
| 62  | 中村祥子               | 経営<br>〈再履修クラス〉 | Akira Uesugi,<br>Noriko Itoh,<br>Richard Powell       | <i>Everyday Talk : A Total Approach to<br/>Listning, Speaking, Writing and<br/>Grammar</i> | 朝日出版社                          |
| 63  | Louise Pender      | 経営<br>〈再履修クラス〉 | Kim Kanel<br>Teruomi Arima                            | <i>What's Going on in English</i>  | 英宝社                            |
| 64  | 岡田章子               | 経営             | Shoko Miura   | <i>Cross-Cultural Listening</i>  | 成美堂                            |
| 65  | 小野良子               | 経営             |   | 未定   |                                |
| 66  | 金城盛紀               | 経営             | Kumai & Timson  | <i>Hot Beat Listening 1</i>  | Macmillan<br>Language<br>House |
| 67  | 金城盛紀               | 経営             | Meurer  | <i>Folk Songs from Around the<br/>World</i>  | 英潮社                            |
| 68  | 日下隆平               | 経営             | Bill Benfield   | <i>Britain Old and New</i>   | 三修社                            |
| 69  | 佐藤充弘               | 経営             | Richard Powell  | 法社会の落とし穴   | Macmillan<br>Language<br>House |

| クラス | 担当者             | 対象               | 著者名  | 使用教科書  | 出版社  |
|-----|-----------------|------------------|--|--|--|
| 70  | 島田勝正            | 経営               | Jack C. Richards   | <i>Basic Tactics for Listening</i>                           | Oxford University Press                              |
| 71  | 清水真一            | 経営               | Tagaya, Haruki, and Furukawa                                       | <i>TOEIC TEST</i>  | 北星堂  |
| 71  | 野原康弘            | 経営               |  | 最初の授業で指示する。  |  |
| 72  | 中井紀明            | 経営               | Wallace Gagne  | <i>News World 2001</i>                                       | Macmillan Language House                             |
| 73  | 横町治子            | 経営               | Dale Fuller<br>三浦笙子  | <i>Airwaves</i><br><i>Cross-Cultural Listening</i>           | Macmillan Language House<br>成美堂                      |
| 81  | Raoul Cervantes | 英語英米<br>〈再履修クラス〉 | Jack Richards  | <i>New Interchange 2 Student Book</i>                        | Cambridge University Press                           |
| 82  | 上村淳子            | 英語英米             | 熊井信弘<br>Stephen Timson   | <i>Hit Parade Listening</i>                                  | Macmillan Language House                             |
| 83  | 太原康雄            | 英語英米             | Dale Fuller<br>C. W. Grimm   | <i>Airwaves</i>  | Macmillan Language House                             |
| 84  | 山科美和子           | 英語英米             | Steven Gershon<br>Chris Mares                                      | <i>Sound Bytes 2</i>   | Longman  |
| 91  | 大橋範子            | 国際文化<br>〈再履修クラス〉 | Timothy Minton   | <i>Listening Corner</i>                                      | 成美堂  |
| 92  | 阿部初子            | 国際文化             | Herman Bartelen,<br>Sean Reedy<br><br>Dale Fuller,<br>Linda Fuller | <i>Listening Power 1</i><br><br><i>Essential Listening 2</i> | Macmillan Language House<br>Macmillan Language House |
| 93  | 岩永道子            | 国際文化             | John S Lander  | <i>Hollywood</i>   | 朝日出版社  |
| 94  | 木村博是            | 国際文化             | B. Heaton  | <i>Vocabulary &amp; Reading Skills</i>                       | 英潮社  |
| 95  | 都築郷実            | 国際文化             | 島田拓司 中井英民 共著<br>Bill Benfield                                      | 実用観光英語   | 成美堂  |

「大学英語入門B」使用教科書一覧

| クラス | 担当者             | 対象              | 著者名                                     | 使用教科書  | 出版社   |
|-----|-----------------|-----------------|---|--|---|
| 01  | 橋本英司            | <スポーツ推薦クラス>     | Haruo Kizuka<br>Roger Northridge        | <i>Common Errors in English</i><br><i>Writing New Edition</i>  | Macmillan<br>Language<br>House                        |
| 11  | 川上与志夫           | 経 済<br><再履修クラス> | 青木雅幸                                    | <i>One Day in a Multimedia Office</i><br>オフィス・コミュニケーション入門  | 成美堂   |
| 12  | 近藤撰子            | 経 済<br><再履修クラス> | 安田哲夫 他編                                 | <i>Newspaper English</i><br>-2001 Edition-   | 朝日出版社   |
| 13  | 太原康雄            | 経 済<br><再履修クラス> | 阿部 一<br>Braven Smillie                  | <i>Active Communicator</i>   | 三修社   |
| 14  | Jeffrey Herrick | 経 済<br><再履修クラス> | Richard R. Day<br>And<br>Junko Yamanaka | <i>Impact Topics</i>   | Longman   |
| 15  | 山本路恵            | 経 済<br><再履修クラス> | Potter, R.<br>&<br>Shiozawa, T.         | <i>Reading Skills 25</i>   | キリハラ書店  |
| 16  | 岡田章子            | 経 済             | John Tilmant                            | <i>Culture Americana</i>   | 成美堂   |
| 17  | 小野良子            | 経 済             |   | 未定   |   |
| 18  | Raoul Cervantes | 経 済             | Jack Richards<br><br>Sandia Heyer       | <i>New Interchange Introduction</i><br><br><i>True Stories in The News</i><br><i>More True Stories in The News</i> | Cambridge<br>University<br>Press<br>Addison<br>Wesley |
| 19  | 釣井千恵            | 経 済             | 九頭見一士<br>石井隆之・山 修                       | 例文で学ぶ 生活用語 800(Ⅱ)<br><i>TOEIC</i> テスト 基礎演習   | 朝日出版社<br>Macmillan<br>Language<br>House               |
| 20  | 出原博明            | 経 済             |   | プリント   |   |
| 21  | 中井紀明            | 経 済             | Beth M. Pacheco<br>Joan Young Gregg     | <i>The Powerful Reader Basic</i>   | Macmillan<br>Language<br>House                        |
| 22  | 中島 剛            | 経 済             | Antony Bloomfield                       | <i>Shocks and Surprises</i><br>世紀の大失敗  | Macmillan<br>Language<br>House                        |

| クラス | 担当者    | 対象             | 著者名                              | 使用教科書   | 出版社                                     |
|-----|--------|----------------|----------------------------------|---|---|
| 23  | 野原 康弘  | 経済             | Robert West (編)                  | <i>Reading Tactics for the TOEIC Test</i>                     | 南雲堂                                     |
| 24  | 橋内 武   | 経済             | Akert, Patricia                  | <i>Points &amp; Views.</i>                                    | 松柏社                                     |
| 24  | 藤森 かよ子 | 経済             |                                  | プリント使用  |   |
| 25  | 三宅 敦子  | 経済             | Casey Malarcher<br>森田 彰<br>松井直樹  | <i>Basic Faster Reading</i><br>速読の基礎演習                        | 成美堂                                     |
| 26  | 林 宅男   | 経済             |                                  | プリント教材  |   |
| 27  | 本山 道子  | 経済             | John S. Lander                   | <i>Hollywood</i>  | 朝日出版社                                   |
| 31  | 玉巻 欣子  | 社会<br>〈再履修クラス〉 | 小野田 榮<br>Noël Gossman            | <i>Daily English</i><br>ビデオで学ぶ日常会話                            | 金星堂                                     |
| 32  | 釣井 千恵  | 社会<br>〈再履修クラス〉 | 九頭見一士<br>石井隆之・山 修                | 例文で学ぶ生活用語 800(Ⅱ)<br><i>TOEIC</i> テスト 基礎演習                     | 朝日出版社<br>Macmillan<br>Language<br>House |
| 33  | 橋本 英司  | 社会<br>〈再履修クラス〉 | Haruo Kizuka<br>Roger Northridge | <i>Common Errors in English Writing New Edition</i>           | Macmillan<br>Language<br>House          |
| 34  | 前田 淑江  | 社会<br>〈再履修クラス〉 | A. Christie 他                    | <i>Tales of Crime and Detection</i>                           | 大阪教育図書                                  |
| 35  | 今井 由美子 | 社会             | Kazuya Asakawa<br>他 4名           | <i>A World in Common : Global Perspectives for the Future</i> | 三修社                                     |
| 36  | 今井 由美子 | 社会             | Kazuya Asakawa<br>他 4名           | <i>A World in Common : Global Perspectives for the Future</i> | 三修社                                     |
| 37  | 上田 洋子  | 社会             | Masanori Terauchi 他              | <i>Interactions Read and Express Yourself</i>                 | 三修社                                     |
| 38  | 上田 洋子  | 社会             | Masanori Terauchi 他              | <i>Interactions Read and Express Yourself</i>                 | 三修社                                     |
| 39  | 沖野 泰子  | 社会             |                                  | <i>Mini-World 2001</i>  | Macmillan<br>Language<br>House          |
| 40  | 高倉 正行  | 社会             | Stephen Bryant                   | <i>The Story of the Internet</i>                              | Longman                                 |
| 41  | 高倉 正行  | 社会             | Christopher Anderson             | <i>The Internet</i>   | 弓プレス                                    |

| クラス | 担当者             | 対象             | 著者名   | 使用教科書  | 出版社                                  |
|-----|-----------------|----------------|---|--|--------------------------------------|
| 42  | 堀内 真由美          | 社会             |   | <i>Mini-World 2001</i>   | Macmillan Language House             |
| 43  | 堀内 真由美          | 社会             |   | <i>Mini-World 2001</i>   | Macmillan Language House             |
| 44  | Michael Carroll | 社会             | 1. Beatrice S. Milulecky & Linda Jeffries<br>2. Ronald Carter | 1. <i>Reading Power</i><br>2. <i>The Penguin Modern English Language Reader</i>            | 1. Tokyo Longman<br>2. Tokyo Longman |
| 51  | 上村 淳子           | 社会福祉           | 本名信行<br>Andy Kirkpatrick<br>Sue Gilbert                       | <i>English Across Cultures</i>   | 三修社                                  |
| 52  | 川上 与志夫          | 社会福祉           | 宍戸 真<br>Bruce Allen   | <i>Go West!</i><br>アメリカ西海岸へ行こう   | 成美堂                                  |
| 53  | 都築 郷実           | 社会福祉           | (前期) 木塚晴夫<br>(後期) Joe Garner                                  | メディア英語入門 (第4版)<br><i>We Interrupt This Broadcast</i>                                       | 北星堂<br>Macmillan Language House      |
| 61  | Sandra Healy    | 経営<br>〈再履修クラス〉 | B.S.Mikulecky L.Jeffries                                      | <i>Reading Power</i>   | Longman                              |
| 62  | Michael Carroll | 経営<br>〈再履修クラス〉 | 1. Beatrice S. Milulecky & Linda Jeffries<br>2. Ronald Carter | 1. <i>Reading Power</i><br>2. <i>The Penguin Modern English Language Reader</i>            | 1. Tokyo Longman<br>2. Tokyo Longman |
| 63  | 南條 健助           | 経営<br>〈再履修クラス〉 | George W. Pifer<br>本名信行<br>Andy Kirkpatrick<br>Sue Gilbert    | <i>TOEIC Short Listening Course</i><br><i>English across Cultures</i><br>(異文化コミュニケーションへの道) | 成美堂<br>三修社                           |
| 64  | 川上 与志夫          | 経営             | 宍戸 真<br>Bruce Allen   | <i>Go West!</i><br>アメリカ西海岸へ行こう   | 成美堂                                  |
| 65  | 後藤 正次           | 経営             |   | プリント   |                                      |
| 66  | 後藤 正次           | 経営             |   | プリント   |                                      |
| 67  | 佐々木 英哲          | 経営             | 越川芳明 編註   | <i>American Short Stories of Today</i>   | 南雲堂/ペンギン                             |

| クラス | 担当者             | 対象               | 著者名   | 使用教科書   | 出版社                                    |
|-----|-----------------|------------------|---|---|--|
| 68  | 辻井悦子            | 経営               | Allum, P. H. & Yamamura, S.                         | <i>Progress in Our World</i>  | 成美堂                                    |
| 69  | 辻井悦子            | 経営               | Allum, P. H. & Yamamura, S.                         | <i>Progress in Our World</i>  | 成美堂                                    |
| 70  | 朴 真理子           | 経営               |   | 第一回目の授業で指示する。   |  |
| 71  | 三宅 亨            | 経営               | 本名信行  | 異文化コミュニケーションへの道   | 三修社                                    |
| 72  | 作井恵子            | 経営               | B. Mikulecky<br>S. Heyer                            | <i>Reading Power</i><br><i>True Stories (Beginner)</i>                                    | Addison<br>Wesley<br>Addison<br>Wesley |
| 73  | 南條健助            | 経営               | George W. Pifer<br>井上久美                             | <i>TOEIC Short Listening Course</i><br><i>In Touch with American Ads</i><br>(心に響くアメリカの広告) | 成美堂<br>成美堂                             |
| 81  | 佐藤充弘            | 英語英米<br>〈再履修クラス〉 | Richard Powell                                      | 法社会の落とし穴  | Macmillan<br>Language<br>House         |
| 82  | 佐々木 英 哲         | 英語英米             | Herman Melville<br>(高村勝治、木村治美 編註)                   | <i>Bartleby</i>   | 松柏社                                    |
| 83  | 橋本英司            | 英語英米             | Paul Mclean<br>Takuji Shimada<br>Robert K. Hickling | <i>Survival English Book 1</i><br><i>Short Listening For Travel</i>                       | 朝日出版社<br>成美堂                           |
| 84  | Kathryn L. マルヤマ | 英語英米             | Pacheco, Beth. M<br>Gregg, Joan Y.                  | <i>The Powerful Reader</i>  | Macmillan<br>Language<br>House         |
| 91  | 近藤 撰子           | 国際文化<br>〈再履修クラス〉 | 安田哲夫 他編   | <i>Newspaper English</i><br><i>-2001 Edition-</i>   | 朝日出版社                                  |
| 92  | 柏木 治美           | 国際文化             | 染矢正一<br>Paul Murray<br>Fred Ferrasci                | アクティブ・イングリッシュ・<br>シリーズ (5)<br>「12 Great Hit Songs リスニング<br>・ワークブック」                       | 英宝社                                    |
| 93  | Ronald Cline    | 国際文化             |   |   |  |
| 94  | Sandra Healy    | 国際文化             | B.S.Mikulecky L.Jeffries                            | <i>Reading Power</i>  | Longman                                |

| クラス | 担当者     | 対象   | 著者名                     | 使用教科書   | 出版社            |
|-----|---------|------|-------------------------|---|----------------|
| 95  | 南 條 健 助 | 国際文化 | George W. Pifer<br>井上久美 | <i>TOEIC Short Listening Course</i><br><i>In Touch with American Ads</i><br>(心に響くアメリカの広告) | 成 美 堂<br>成 美 堂 |



英語 I (リーディング) 使用教科書一覧

| クラス | 担当者   | 対象             | 著者名   | 使用教科書  | 出版社                            |
|-----|-------|----------------|---|--|--------------------------------|
| 01  | 木村博是  | <スポーツ推薦クラス>    | O'Brien, Terry  | <i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>  | 南雲堂                            |
| 11  | 大川愛子  | 経済<br><再履修クラス> | Graham Law  | <i>In Contrast</i>   | Macmillan<br>Language<br>House |
| 12  | 小野良子  | 経済<br><再履修クラス> |   | 未定   |                                |
| 13  | 佐治多嘉子 | 経済<br><再履修クラス> | 染矢正一<br>F. フェラッシー<br>P. マレー                                 | <i>American Homestay Do's &amp; Don'ts</i>                                     | 南雲堂                            |
| 14  | 西崎和子  | 経済<br><再履修クラス> | Richard D. Lewis  | <i>When Cultures Collide</i>   | 南雲堂                            |
| 15  | 佐藤充弘  | 経済             | 西村晴雄<br>米山司郎  | 国際報道の英語 2001/2002  | 三修社                            |
| 16  | 杉田トモ子 | 経済             | 横山竹己、羽井佐昭彦、<br>宮曾根美香、森山盛吉、<br>Lorne Spry<br>George W. Pifer | <i>Health and Science</i><br><br><i>TOEIC Short Listening Course</i>           | 朝日出版社<br>成美堂                   |
| 17  | 杉田トモ子 | 経済             | 横山竹己、羽井佐昭彦、<br>宮曾根美香、森山盛吉、<br>Lorne Spry<br>George W. Pifer | <i>Health and Science</i><br><br><i>TOEIC Short Listening Course</i>           | 朝日出版社<br>成美堂                   |
| 18  | 三宅敦子  | 経済             | Terry O'Brien 他   | <i>A Trip to Britain</i><br>-はじめてのイギリスライフ                                      | 南雲堂                            |
| 19  | 横町治子  | 経済             | 中村憲明  | <i>Newspaper English</i>   | 成美堂                            |
| 31  | 日下隆平  | 社会<br><再履修クラス> | James C. Bruce  | <i>Bridging Cultures : English for<br/>Global Communication</i>                | 金星堂                            |
| 32  | 中村祥子  | 社会<br><再履修クラス> | Paul H. Allum<br>山村三郎                                       | <i>Progress in Our World :<br/>Technology, the Environment and<br/>Society</i> | 成美堂                            |
| 33  | 横町治子  | 社会<br><再履修クラス> | Casey Malarcher   | <i>Intermediate Faster Reading</i>   | 成美堂                            |

| クラス | 担当者                | 対象             | 著者名   | 使用教科書   | 出版社                            |
|-----|--------------------|----------------|---|---|--------------------------------|
| 34  | 岩永道子               | 社会             | Masachika Ishida,<br>Naoko Ogawa,<br>Yumiko Yoshida,<br>Mariko Miyajima | <i>New Interactive Reader</i>                                       | 金星堂                            |
| 35  | 岩永道子               | 社会             | Masachika Ishida,<br>Naoko Ogawa,<br>Yumiko Yoshida,<br>Mariko Miyajima | <i>New Interactive Reader</i>                                       | 金星堂                            |
| 36  | 大川愛子               | 社会             | Peter Milward   | <i>Why Am I ?</i>   | 成美堂                            |
| 51  | 橋本英司               | 社会福祉           |   | プリント教材  |                                |
| 52  | Terence J. O'Brien | 社会福祉           | O'Brien, Terry  | <i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>                               | 南雲堂                            |
| 61  | 大川愛子               | 経営<br>〈再履修クラス〉 | Graham Law  | <i>In Contrast</i>  | Macmillan<br>Language<br>House |
| 62  | 沖野泰子               | 経営<br>〈再履修クラス〉 |   | <i>Mini-World 2001</i>  | Macmillan<br>Language<br>House |
| 63  | 川上与志夫              | 経営<br>〈再履修クラス〉 | 青木雅幸  | <i>One Day in a Multimedia Office</i><br>オフィス・コミュニケーション入門           | 成美堂                            |
| 64  | 都築郷実               | 経営<br>〈再履修クラス〉 | (前期)石黒昭博<br>R. スボン 共著<br>北林利治<br>(後期)神本忠光                               | 語彙・表現力アップの総合演習<br>はじめての英字新聞   | 英宝社<br>朝日出版社                   |
| 65  | David T. Van Ham   | 経営<br>〈再履修クラス〉 | Charles Cushman   | <i>Active Reading</i>   | EFL Press                      |
| 66  | 上村淳子               | 経営             | 千葉元信<br>松尾秀樹<br>岡崎久美子   | <i>Reading Landmarks of the World</i>                               | 三修社                            |
| 67  | 柏木治美               | 経営             | 染矢正一<br>Paul Murray<br>Fred Ferrasci                                    | アクティブ・イングリッシュ・<br>シリーズ (5)<br>「12 Great Hit Songs リスニング<br>・ワークブック」 | 英宝社                            |
| 68  | 柏木治美               | 経営             | 染矢正一<br>Paul Murray<br>Fred Ferrasci                                    | アクティブ・イングリッシュ・<br>シリーズ (5)<br>「12 Great Hit Songs リスニング<br>・ワークブック」 | 英宝社                            |

| クラス | 担当者             | 対象               | 著者名                                   | 使用教科書   | 出版社                      |
|-----|-----------------|------------------|---------------------------------------|---|--------------------------|
| 69  | 日下隆平            | 経営               | James C. Bruce                        | <i>Bridging Cultures : English for Global Communication</i> | 金星堂                      |
| 70  | Ronald Cline    | 経営               |                                       |   |                          |
| 71  | 太原康雄            | 経営               | 宍戸真<br>Bruce Allen                    | <i>Go West !</i>  | 成美堂                      |
| 72  | Lynne Douglas   | 経営               | Liz and John Soars                    | <i>Headway, Elementary level</i>                            | Oxford University Press  |
| 73  | 萬戸克憲            | 経営               | Toru Nishimoto                        | <i>Messages to you</i>                                      | キリハラ書店                   |
| 81  | 萬戸克憲            | 英語英米<br>〈再履修クラス〉 | N. Kumai<br>S. Timson                 | <i>Hit Parade Listening</i>                                 | Macmillan Language House |
| 82  | 佐々木英哲           | 英語英米             | Herman Melville<br>(高村勝治、木村治美編註)      | <i>The Piazza Tales</i>                                     | 松柏社                      |
| 83  | 橋本英司            | 英語英米             |                                       | プリント教材  |                          |
| 84  | Kathryn L. マルヤマ | 英語英米             | Jorgensen, Sally<br>Whiteson, Valerie | <i>Personal Themes in Literature</i>                        | Longman                  |
| 91  | Ronald Cline    | 国際文化<br>〈再履修クラス〉 |                                       |   |                          |
| 92  | Louise Pender   | 国際文化<br>〈再履修クラス〉 | Carol Kasser<br>Ann Silverman         | <i>Stories We Brought With Us</i>                           | Prentice Hall            |
| 93  | 大井映史            | 国際文化             | Lorraine C. Smith<br>ほか               | <i>Topics for Today Book 2</i>                              | 松柏社                      |
| 94  | 佐藤充弘            | 国際文化             | 西村晴雄<br>米山司郎                          | 国際報道の英語 2001/2002   | 三修社                      |
| 95  | 中島剛             | 国際文化             | Brian Moeran                          | <i>Counter-Orientalism</i><br>イギリス広告の中の日本イメージ               | 松柏社                      |